

8月臨時教育委員会会議録

開催年月日	令和5年8月3日(木)
開催時間	午前9時00分
開催場所	市役所本館8階 第2委員会室
出席委員	村本 教育長職務代理者 水野 委員 岩井 委員 藤井 委員
出席職員	原田副教育長・小山教育監・黒井学校教育推進課長・打抜教育センター所長・山本学校教育推進課長補佐・村上学校教育推進課指導主事

【村本教育長職務代理者】 それでは、ただいまより8月臨時教育委員会を開催いたします。本日は、浦上教育長が不在のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第2項にもとづき、私が教育長職務代理者として、本会議の司会、進行を務めます。よろしく願いいたします。

本日の会議録署名委員に岩井委員を指名したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、教科書採択に関わる案件が3件上程されておりますので、順次審議してまいりたいと思います。

なお、採択に関する教育委員会については、公開で行うことを既に4月の定例教育委員会で確認しておりますので、申し添えておきます。

【村本教育長職務代理者】 それでは議事に入らせていただきます。

議案第22号「令和6年度使用 八尾市立小学校教科用図書の採択に関する件」について審議いたします。提案理由を黒井学校教育推進課長より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 それでは、議案第22号「令和6年度使用八尾市立小学校教科用図書の採択に関する件」について、ご説明いたします。

本件については、教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第9号の規定により、次のとおり委員会の議決を求めるものです。

提案の理由といたしましては、令和6年度使用八尾市立小学校教科用図書を採択するにつき、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条に基づき、本案を提出する次第です。

以上、甚だ簡単な説明ではありますが、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

【村本教育長職務代理者】 今年度は、令和6年度に使用する小学校の教科書を採択する

年であります。八尾市の子どもたちの、主たる教材としての教科書でございますので、教育委員会として、その権限と責任において、採択してまいりたいと考えておりますが、選定委員会からの答申に至るまでの経過について確認したいと思いますので説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 令和5年4月21日（金）に、令和6年度より使用されます小学校用教科用図書の採択にあたりまして、八尾市教育委員会より選定委員会に諮問をさせていただきますました。

それを受け、第1回選定委員会を令和5年5月25日（木）に開催し、選定委員会運営要領により調査員の任命委嘱などについて、決しました。

また、令和5年7月13日（木）、14日（金）に開催しました第2回、第3回選定委員会において、調査員などの報告書をもとに慎重に審議を重ね、各教科の答申を作成し、令和5年7月25日（火）に教育委員会へ答申を手交した次第です。

【村本教育長職務代理者】 ただいま説明がございましたが、前回の令和2年度の時は、選定委員会からの答申をもとに、大阪府教育委員会からの教科用図書選定資料並びに市民からの声も参考としながら、審議し、採択したということです。

今回についても、各委員、すでに読んでいただいているかと思いますが、答申をもとに審議を進め採択をするということでご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし。

【村本教育長職務代理者】 全委員ご異議がないようですので、そのように審議を進めてまいりたいと思います。

それでは、これから11教科13種目の教科書の検討を進めていくわけですが、教科・種目の検討を進める順序については、答申の順序で進めていければと考えていますが、よろしいでしょうか。

【全委員】 異議なし。

【村本教育長職務代理者】 あともう一点、今回採択する教科書には全て二次元コードが付いております。この取り扱いについて確認しておきたいと思います。

事務局より説明いただきたいと思います。

【黒井学校教育推進課長】 デジタル教科書・二次元コード等の扱いについてですが、文部科学省通知「令和6年度使用教科書の採択事務処理について」において、採択に当たっての留意事項として、「教科書採択は紙の教科書を決定する行為であり、調査・検討の対象は紙の教科書であることが基本であること。

一方で、令和6年度以降、英語の学習者用デジタル教科書を紙の教科書と併せて提供する予定であり、令和5年度の小学校英語の教科書採択については、小学校英語のデジタル教科書を調査し、考慮の一事項とすることができること」とされています。したがいま

して、外国語につきましては、デジタル教科書の内容等も検討内容に含め、他の教科については、各教科書の紙面を基本とし、二次元コードの内容等については補助的な扱いとします。

二次元コードはタブレット端末等で読み取りますと、各教科書会社のサイトやコンテンツにアクセスできるようになっており、1人一台端末を使った授業の中での活用の他、自宅での学習等において、補充的・発展的な学習に活用することができるものとなっております。

【村本教育長職務代理者】 デジタル教科書及び二次元コードについて事務局から説明がありました。よろしいでしょうか？

【全委員】 異議なし

【村本教育長職務代理者】 それではこのあと答申をもとに審議を進めたいと思いますが、八尾市教育センターと八尾図書館の2箇所教科書展示を行ったと聞いております。どのような市民の意見が寄せられたのか、お聞きしたいと思います。

【打抜教育センター所長】 本年度の教科書展示会の状況について報告させていただきます。

本年度は、令和6年度使用教科書の展示会を行いました。法定外展示会として、6月2日（金）から6月15日（木）までの10日間、教育センターにおいて開催しました。また、法定展示会として、6月16日（金）から7月5日（水）までの14日間を教育センターで開催しました。また、八尾図書館においても休館日を除き、土日を含めて6月14日（水）から7月4日（火）までの期間、開催しました。

教育センターでの閲覧者数は、法定外展示会では2名、法定展示会では14名、合わせて16名。また、八尾図書館では44名、合計60名の方に来ていただきました。

閲覧に来られた理由としては、「教科書の内容について知りたい」、「複数の教科書を比較したかった」といったものが多くみられました。

また、「地図帳に興味があったため」「どこの出版社があるか知りたかった」といったものもみられました。

また、教科書を閲覧して、「6年生の音楽の教科書にいい歌がたくさんありうれしかった」、「SDGsや地球環境についての記述があり、良いと思う」、「児童・生徒の興味、意欲関心を高める話題や題材が豊富である」、「資料が正確・豊富で、わかりやすい」などさまざまなご意見をいただいております。

以上、甚だ簡単ではございますが、本年度の教科書展示会の状況についての報告とさせていただきます。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。2箇所を設置いただき、60名の市民の方々にご覧いただくことができたということですね。

あと、それ以外に諸団体から2件ほど、要望書をいただいております、教育委員の皆さんにも目を通していただいております。

それでは、これより、11教科13種目の教科書について審議をしていきたいと思っております。各委員、読んでこられた教科書や答申を踏まえ、活発なご意見をお願いしたいと思います。

それでは、「国語」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の国語の検討のまとめとしては、情報を活用する力を育成できるということ、思考力や表現力を育成できるということ、言語活動が充実しているということ、主体的・対話的で深い学びにつながる学習活動の工夫があること、こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の児童の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領では、「言語活動の創意工夫」、「情報の扱い方に関する指導の改善・充実」、「言語文化に関する指導の改善・充実」、「学習過程の明確化と考えの形成の重視」、といったことがポイントとなっております。

【村本教育長職務代理者】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【藤井委員】 情報を活用する力の育成についてなのですが、急速に情報化が進み多様化するこれからの社会を生きていく子どもたちにとって、大変重要な視点だと思います。どの教科書でも、多様な情報を関連付けながら現代的な課題について考える教材が扱われていると思いました。

東書では、2年生から「情報の扉」で情報活用能力を高める教材を扱っており、学習事項が「関係」「整理」「調査」「論理」の四つの系統に整理されています。例えば2年生上74ページなのですが、ここでは「順序」について扱っており、漫画形式でポイントや練習問題が掲載されていて、子どもたちの興味関心を引く工夫がされています。

教出では、全学年で巻末に「情報のまとめ」があります。例えば、3年生上149ページなのですが、必要な情報を取り出したり、情報と情報との関係を整理したりできるよう体系的にまとめられています。そして、関連する単元のページが記されていて、子どもたちが振り返りやすくなっているという風に思いました。

光村では、全学年で情報の扱いについて丁寧に取り上げられています。3年生上101ページでは、写真を使って報告書を書いたり、4年生下122ページではスピーチの練習を撮影したりする学習活動が取り上げられています。3年生から必然性をもってICT機器を活用して、その活用能力を育めるように工夫されているという風に感じました。また、2年生以上の全ての巻末に「図を使って考えよう」が掲載されており、6年生311ページでは、思考ツールを使って情報を整理する方法や、整理した情報を伝える時の言葉が掲載されてい

て、本市の課題である「情報活用能力」の育成に効果的であると思いました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【水野委員】 先ほど黒井課長からの説明もありましたけれども、八尾市の教育課題として、表現力ですね。自分の考えを明確にして、それを書いたり伝えたりする力ということが、非常に大事になってくるのですが、教科書を読ませていただきましたけれども、どの教科書も「話す・聞く」「書く」「読む」の各言語活動において、課題解決的な学習に取り組むことで、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や表現力を養う内容となっております。

各社ともに5年生で「大造じいさんとガン」という一つの山の国語の授業があると思います。私も何度か研究授業を拝見させていただいたことがあるんですけども、挿絵について少し違いが見られました。教出の5年上、90ページですかね、89ページから始まるんですけども、挿絵自体は91ページにございます。それから、光村の5年の228ページから、物語が始まっているのですが、教出ではリアルに描写されており大造じいさんや残雪の表情が分かるような挿絵でした。光村ではあえて、物語をはっきりと描写せず、子どもたちが物語の叙述を基にイメージしやすいように工夫されているのかなと推察をいたしました。

また、光村の6年生では、複数の文章をもとに考えたことを伝え合い、自分の考えを深めるということをテーマとして、読む教材、それから書く教材、話す聞く教材、この3つがつながりあっていて、6年生の205ページのように、学習した内容が次に活かされるように配列されている箇所があります。こうした一連の学習を通して、根拠を明確にして意見を述べることのよさや大切さについてもしっかりと学習することができるようになっていきます。5年106ページや4年122ページについても、複数の資料から考察するという一方で、今、情報化社会でさまざまな資料がありますけれども、そういうものを比較しながら考察できるという能力は、非常に大切だと思っております。本市の児童の課題に合った力がつけられるのではないかなと思っております。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【岩井委員】 八尾市の児童においては、言語文化に関する指導の充実、及び、八尾市の児童の読書に関するアンケート結果から、読書活動の推進が重要であると考えます。

言語文化に関する指導に関しては、各社とも、昔話や俳句・短歌、古典文学に加え、能・狂言等の伝統芸能等、さまざまな言語文化に触れられる題材が、発達段階に応じて、児童に分かりやすいように工夫して取り入れられていると思いました。

東書では、6年210ページ、「古典芸能への招待状」として、狂言「神鳴」が取り上げられ、二次元コードでも動画鑑賞することができます。光村では、6年150ページ「古典芸能の世界」として、狂言「柿山伏」が取り上げられ、読むだけでなく、実際に子ども

たちがふりを付けて演じてみるという学習の流れになっていて、その際、二次元コードの動画を参考にできるように工夫されています。また、落語についても、「この本読もう」のコーナーで、「まんじゅうこわい」などの本が紹介され、二次元コードに動画資料があります。子どもたちも先生も、実際に触れる経験が少ない古典芸能だけに、二次元コードの動画コンテンツは、学びを充実させるために、非常に効果的であると思いました。

また、読書活動の推進についてですが、各社とも、さまざまな種類の本の紹介や図書館の活用について1年入学の早い時期から取り上げられ、読書活動の推進を意識した内容になっていると思いました。

府の選定資料 16 ページの「紹介している図書」の冊数を見ますと、東書は 595 冊で紹介図書数が最も多く、読書活動の推進に力をいれていると思います。光村は、538 冊で、他の教科書会社よりも数は少ないようですが、先ほどの落語のところでも触れましたが、単元の学習が終わるごとに、「この本読もう」という見出しで、その単元で学んだことと関連させた本を、さまざまな角度から、おすすめ文つきで紹介したりもしていて、子どもたち一人ひとりの読みたい気持ちを引き出す工夫が丁寧にされていると感じました。

読書意欲を引き出す工夫という点では、教出においても、紹介している本の大半に、あらすじやおすすめ文が掲載されています。例えば、6年生の 21 ページの「本を読もう」では、作品の一部を紹介して、続きを読みたくなるように工夫がされていると感じました。

さらに、言語活動の充実という点では、子どもたちが、学んだことで自身の成長が実感でき、それが、また次の学びへとつながって、日常や他教科に活かされていくというサイクルが非常に重要だと思います。

各社の4年生上の教科書で見比べてみますと、教出では、4年生 134 ページの「広がる言葉」の中に「つながる広がる」という題材があります。そこでは、4年生のこれまでの学習を振り返って、できるようになったことをノートに書き、それが、他教科や生活の中にどんなふうに活かしていけるのかを考える学習が掲載されています。また、157 ページの「大事な言い方をたしかめよう」では、引用を表すときに使う言い方や自分の考えを述べるときに使う言い方等がまとめて掲載されています。これらは、八尾市の課題でもある学びを活かす力の育成につながると思います。

東書でも、4年生上 152 ページにある「言葉の広場」には、引用するときにする言葉等がまとめられていて、キャラクターが他教科の学習や生活にも活かすよう促しています。

また、光村は、巻末資料が充実していると思いました。4年生上の 157 ページからの「言葉のたから箱」では、「物や事柄の様子を表す言葉」や「気持ちを表す言葉」等が掲載されており、出来事を説明したり、自分の考えや感想を伝えたりする時に役立てることができると思います。

また、6年生の 261 ページからの「学習を広げよう」では、文章を読んだり書いたりするときのポイントや参考になる資料がまとめてあって、豊かな言語活動が意識できる工夫がされていると思いました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見がありましたらお願いします。

【水野委員】 冒頭に黒井課長の方から選定委員会での検討のまとめということで、最後に主体的・対話的で深い学びの学習活動ということを指摘されたんですけども、その視点でちょっと教科書をふり返っていきたくと思います。どの教科書会社さんも自らの学習をふりかえって、学んだことを実生活や他教科の学習等につなげていくということが取り扱われています。特に他教科だとか生活への応用というのは非常に学習を主体的にする方向性としては大事なことだと思います。

なかでも東書と光村は、單元ごとに「いかそう」ですね。学習や生活に活かすということで、活かしてみようというのがあります。例えば、東書の5年 63 ページや光村の5年 111 ページのように、身につけた言葉の力を他教科や日常生活に活かす視点というのは、八尾市の子どもたちの課題に合った力をつけられる内容の可能性が非常に高いと考えます。

また、各社とも目次やそのあとに学習内容を示したページがあります。どの教科書も領域別に示されていて、とてもわかりやすいと思いました。特に光村は、他のページとサイズを変えて、児童が該当ページを見返しやすいうように工夫されています。5年の 12 ページには、5年生の学習内容と併せて4年生の学習内容が記載されており、学びのつながりというのが非常に分かりやすく示されています。知識とか言語というのは、こういうネットワークで、関連性で覚えていくということが非常に大事だと言われています。そういった工夫があります。

児童の発達段階を考慮するという点では、東書は、2年生から国語ノートの作り方というのが掲載されています。2年上 10 ページに掲載されているんですけども、このように、学習したことが分かりやすく、ノートを使って考えることができるという工夫がされています。

効果的な指導という点で見ますと、東書の「振り返り」では、振り返りの視点を焦点化して掲載しています。2年生上の 48 ページにあるように、焦点化することで児童は学んだことへの振り返りを意識することができるように作られています。

それからもう一点ですね、昨今の小学校、まあもちろん中学校でもそうですけれども、教科横断的というのが、非常に大きなキーワードになるわけですね。知識のネットワークを、先ほどは4年生から5年生ですけど、今度は他教科とのネットワークで考えていくと、教出の4年上の 58～59 ページの「リーフレットで報告」では「社会科見学でいくごみしより工場では～」ということで、リサイクルとかSDGsという観点から含めると、社会科とのつながりを意識でき、また、光村の4年上の 98～99 ページの「アンケート調査のしかた」というのがあるんですけども、表やグラフで伝える活動を設定しており、算数科と関連のある内容を扱っています。また一方で、東書では5年 202 ページ、「日本語と英語」で、具体的に英語と比べながら考えていくという課題設定がされています。英語教育が小学校でも始まって久しいですけど、こういう言葉のネットワークで考えていくということですね。このように各社ともに他教科等と関連した内容を扱っており、教科横断的な指導が図れる教材を積極的に取り上げていただいていると思います。

また一方で、各社とも、対話や交流を通して主体的に学ぶ、主体的な学びということが一つ非常に動機づけの面でも非常に大事なんですけども、先ほど本市の課題としてあがっていた、自分の考えを明確に書いたり伝えたりする力ということでは、書くことだけではなく、話す・対話することの中で育てていくということが非常に大事ですよ。それ

からもう一方では、話を聞くということも、日常生活では非常に大事なスキルの一つだと考えます。

また、小学校において、抽象的な思考に入る発達段階というのはだいたい4年生だと考えているんですけれども、4年上ですね、4年生の前半で話を聞くことに関する単元があるのが、光村の4年生上の44ページ、東書の4年上の34ページに記載があるんですけれども、これを見比べると、光村の方が「問い」を立てるような授業展開になっていることで、それからメモの具体例が2つ示されていますので、そういった授業展開をする際に、非常に授業の展開がしやすくなっているのではないかと感じました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見ございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、審議も整理できましたので、採決に移りたいと思います。

「国語」について、答申や本日の審議の中からもまとめさせていただきますと、情報活用に関する内容が充実している点、思考力や表現力の育成にむけた学習活動が工夫されているという点、言語文化の取り扱いや読書推進、言語活動の充実に向けた資料等が充実している点、主体的・対話的で深い学びにつながる学習内容の工夫がある点、また、本市の児童の状況等も含めて総合的に勘案いたしますと、光村図書の「国語」が本市の児童にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【村本教育長職務代理者】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「国語」の教科用図書につきましては、光村図書出版株式会社の「国語」を採択することが適当と決しました。

それでは、「書写」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の書写の検討のまとめとしては、書写に関する事項について理解しやすく工夫されていること、多様な文字文化や表現にふれることができる内容であること、日常生活の中で効果的に活用できるよう工夫されていること、こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の児童の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領では、「多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと」や「書写に関する事項について理解し使うこと」等がポイントとなっています。

【村本教育長職務代理者】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【岩井委員】 各社とも、学年に応じて適切な指導内容が取り上げられていると思います。毛筆を使用する書写の指導の際は、書き方のポイントを学び、それを踏まえて毛筆で学習し、そのあと学んだことを活かして硬筆で書くという流れになっていて、毛筆での学びが

硬筆の基礎になるよう考えられていました。

毛筆は3年生から始まります。始めによこ画、次にたて画という順序で学習しますが、東書の3年生14ページを見ると、たて画と点が一緒になっています。本市の児童の実態と照らし合わせると、少し難しいのではないかと感じています。また、「おれ」と「はらい」の順番について、光村と東書は「おれ」の次に「はらい」を扱っていますが、教出は逆の順番になっています。「おれ」の前に「はらい」を書くのは、少し難しいのではないかと感じました。

どの児童にも見やすい紙面という点では、光村の教科書は大変すっきりとして見やすいと感じました。例えば3年30ページの「右はらい」を見ますと、筆づかいについて気をつけるポイントが分かりやすく記されています。主たる学習要素が大きく示され、何をやるかが分かりやすいよう紙面が工夫されています。

東書では、学習事項のポイントを、「書写のかぎ」として示しています。例えば4年12ページを見てください。ここでは「点画の長さ」について掲載されており、発達段階を考えて端的でわかりやすく説明がされています。児童が学習に取り組むうえでの支援としてよいと思いました。光村では1年と3年にスタートブックを掲載しています。基本的な事項が分かりやすくまとめられており、書写学習が始まる1年と毛筆学習が始まる3年にとって大変効果的だと感じました。

また、二次元コードのコンテンツは夏休み、冬休みといった長期休みの課題を家庭で行う際に効果的に活用でき、児童の主体性の育成につながることを期待できます。そういった観点で見ますと、二次元コードのコンテンツ数も重要なポイントになると思います。大阪府教育委員会作成の教科用図書選定資料、書写の8ページをご覧ください。各教科書会社の二次元コードコンテンツ数が掲載されています。光村では、特にコンテンツ数が多く、1年生への書き方の指導をていねいに取り扱うなど、児童の学習を支援するツールとして充実していると感じました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【藤井委員】 文字文化についてなのですが、各社ともさまざまな観点から文字文化に触れて、児童の学ぶ意欲を高める工夫が見られたと思います。東書の5年生38ページや教出の6年生巻頭では、世界の文字を紹介しています。また、光村では3年の36、37ページでことわざを取り上げています。ことわざをイメージしたイラストも掲載されていて、児童にとって想像しやすい工夫がされていると思いました。全国学力・学習状況調査等では、ことわざとその意味が結びつかないことが本市の課題としても見受けられましたので、こういった取り扱いがあることはよいのではないかと思います。

東書の2年の巻末には、えんぴつの作り方が掲載されていて、普段使っているえんぴつについて詳しく知ること、文字文化に触れることができる工夫がされています。また、3年では筆・和紙・すずり・すみの作り方を取り上げていて、児童が書写を学ぶ意欲や興味関心が高まるのではないかと思います。教出では、材料となる植物や岩石などの写真もあり、児童の興味を高められるのではないかと思います。

また、文化審議会答申では漢字を手書きすることの重要性が記されています。手書きで書くことの価値について児童自身が理解した上で学習を進めていくことは大切だと思います。「手書き」については各社取り扱っておりますが、光村では5年 12 ページで、東日本大震災の翌日に石巻の新聞社が手書きで発行した壁新聞が取り上げられています。「手書きの力」を感じることでできるよい教材だと感じました。さまざまな場面でデジタル化が進んでいて、手で書く機会が減っていく中で、このような学習は大変意義があると考えます。書いて伝えたいという気持ちが新しい学びへとつながるのではないかと思います。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【水野委員】 先ほど藤井委員から、書いて伝える、手書きという話がありましたけれども、日常生活の中で効果的に文字を書くということはすごく大事なことだと思っています。各社ともさまざまな生活場面や学習活動を取り上げて、書写の学びをどうやったら日常生活に活かしていけるのかということを表示されているのが見られました。

教出の4年生の18 ページでは、発表の資料の書き方ということがありました。光村の5年生の24 ページでも新聞の書き方、東書の6年生の24 ページではポスターの書き方を扱っており、書写で身に付けた知識や技能を書写以外の場面で活かせるよう工夫されています。光村では6年 32 ページに、パンフレットの書き方ということで、私のおすすめの一曲というテーマで、非常に子どもたちの生活場面に沿ったパンフレットの書き方になっています。文字の大きさや配列など、そういったこともかなり具体的に書かれていて、筆記用具のさまざまな点も比較して解説がされています。

また、教出の「書き方のコツ」では2生 26 ページの算数ノート、4年 29 ページに理科ノートの書き方が掲載されています。身につけた書写の力を他教科の学習活動でどう活かせばよいかということで、そういった意味では具体的な活用になっていると思います。

光村では、6年生の「書写ブック」というのがあって、教科書から取り外して活用できるようにになっています。これは6年間の書写のポイントがまとめられており、本当に身につけているらなところで活用できるようにしているという意味で言うと、教科横断的な活用にも、それから日常生活への学習内容の応用という面においてもいいのではないかと思います。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見ございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、審議も整理できましたので、採決に移りたいと思います。

「書写」について、答申や本日の審議の中からまとめさせていただきますと、書写に関する基礎的な知識や技能について理解しやすく工夫されている点、多様な文字文化や表現、手書きの良さ等にふれることができる内容が充実している点、日常生活の中で効果的に活用できるよう工夫されている点、また、本市の児童の状況等も含めて総合的に勘案いたしますと、光村図書の「書写」が本市の児童にとって最も適した教科書であると思いますが、

この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【村本教育長職務代理者】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「書写」の教科用図書につきましては、光村図書出版株式会社の「書写」を採択することが適当と決しました。それでは、「社会」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の社会の検討のまとめとしては、人権尊重の観点で、多様な内容を取り扱っていること、主体的・対話的で深い学びが実現するよう、学習過程や内容が工夫されていること、児童にとって理解しやすい資料や写真、図などがあること、社会的な見方・考え方を育成するための工夫がされていること、こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の児童の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領において、小学校社会科では、「公民としての資質・能力の基礎」を育成することをめざしており、「社会的な見方・考え方」の育成や、「問題解決的な学習」などがポイントとなっています。

【村本教育長職務代理者】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【水野委員】 黒井課長からも説明がありましたけれど、やはり公民としての資質というか、昨今さまざまな外国につながりのある方々と日常的に出会うことも多くなって、グローバルシティズンシップというか、グローバルな社会の中で、我々がどう生きていくかということ子どもたちと一緒に考えていく。それが民主的な社会を形成していくということの資質、グローバルシティズンシップということになるのではないかと思います。ですから、そういうことが獲得できるきっかけのある教科書ということがすごく大事になってくるのではないかという風に思います。

まずは、人権尊重という観点があるかと思えます。どの教科書会社も学習指導要領に沿って、配慮されています。特に、日本の領土ということに関しては、さまざまな意見があり、各教科書共にそういった意見を踏まえながら統一的に明記されています。

もう一つは、ユニバーサルデザインの観点についても、フォントやカラーデザインの面で配慮されていると思います。また、身分制度に関しても、3社とも中世から近代まで時代ごとに触れられており、流れとしても理解しやすいと思えました。

日文は、3年 86～87 ページで、バリアフリーに関する取組みが紹介されています。また、同じ日文の5年生 156 ページでは、手だけで運転できる車の紹介や6年では 10～11 ページに、障がい者施設の紹介などユニバーサルデザインに関する題材が取り扱われており、人権や憲法を絡めて学習できるような内容となっています。また、中世から現代にいたる身分制度の歴史、また差別の歴史、アイヌ民族・在日外国人の歴史についても取り扱

われており、随所に共生社会をめざす姿勢が見られます。また、同じ日文の6年生230ページでは、川口市を例に、外国人の方への支援活動などを通じた多文化共生をめざすまちづくりについて取り上げています。夜間中学校についてもケースとしてあがっていて、同じ夜間中学校を持つ本市として、身近な暮らしと結び付けやすい内容になっているのではないかと感じます。

教出では、6年生13ページにあるように、憲法や政治分野の学習において、障害者差別解消法という法律がありますけれども、それを軸として取り上げ、だれもが暮らしやすい社会づくりについて考えながら学ぶという構成になっています。また、4年生200～209ページでは、福岡市を例に、在日外国人の人々とともに地域社会をつくっていく事例として取り上げていて、こういうことを元に議論するということも考えられます。

東書でも、6年政治・国際編62ページ以降で日本とのつながりの深い国々ということで、文化や生活、スポーツや文化による国際交流を取り上げています。71ページでは、アメリカのロサンゼルスが多文化社会についてのページの中で、日系人社会について取り上げています。また、各国の小学生の生活をさまざまに紹介したりするなど、国際理解につながる内容になっていると思いました。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【岩井委員】 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、3社とも、話し合い活動を多く取り扱っています。各社とも単元のまとめの場面で話し合いを多く取り入れて、学習をまとめられるよう工夫されていました。その際、キャラクター同士が会話する形で話し合う視点が示されており、話し合いをスムーズに行うための支援となるような配慮が見られました。

また、児童が見通しをもって学習に取り組めるよう、日文は、見開きの本文を、「学習のつかみ」、「学習内容」、「まとめや考え」の3つに分けることで、どこに何が書かれているかがわかりやすいよう工夫しています。たとえば、5年86ページをご覧ください。はじめに、その時間に学ぶ課題が示されています。次に、実際に農業に従事されている方の話が入り、課題の追究につながります。着色されている箇所が、その時間に習得すべき知識・技能にあたります。その後、課題に対する一つの答えがまとめとして提示されており、どこに何が書かれてあるかが一目でわかるようになっています。また、本文が対話形式で記されているので、内容が理解しやすいと思います。

それから、学びを広げたり深めたりする工夫として、東書では、合計250以上のデジタルコンテンツが収められ、動画やワークシートなどが充実しています。教出は、「自分で調べて考える」ページを設け、個に応じた学びを促しています。たとえば、5年41～42ページをご覧ください。ここでは、追究すべき問い、課題解決に向けた学習の進め方やポイント、まとめ方などの手がかりが示されており、主体的な学びにつながりやすくなっています。

日文では、「考えよう！SDGsコーナー」や「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」など、SDGsについて多く取り扱い、日本や世界の諸課題への意識を高める工夫をしています。

す。各学年の教科書の最後には、SDGsの 17 の目標シールが付いており、該当するページに貼ることで、学びの振り返りや友達との交流につながります。また、500 以上のデジタルコンテンツがあり、学びの深まりにつながると思いました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【藤井委員】 資料や写真、図などについて、各社とも独自の工夫が見られると思いました。教出 6 年の 220 ページですが、歴史上の白黒写真を、AI 技術によりカラー化した資料を掲載しています。これにより、資料を細部まで見られるとともに、当時のイメージがつかみやすくなっているという風に思います。それは児童の理解につながるのではないかと考えました。

日文 3 年 2～3 ページと教出 3 年 6～7 ページでは、社会科の学習が始まる 3 年生の導入として、社会科の学習の進め方を掲載し、社会科における問題解決的な学習の進め方がわかりやすく示されています。東書も 3 年 24～25 ページで学習の進め方を取り上げています。これから社会科の学習を始める 3 年生にとって、取り組みやすい配慮がされていると思いました。

日文は 3 年 113 ページなど、3・4 年の段階から教科書にもグラフや表を多く掲載しています。早い段階から資料に慣れるという点で良いと思いました。また、近年、地震や異常気象について話題にのぼることが多いと思いますが、防災を題材にした教材は、本市の児童にとっても欠かすことができないものだと思います。選定資料の社会 21 ページを見ますと、日文では防災に関する資料の取り扱いが充実しています。

また、社会的な見方・考え方を育成するための工夫について、学習指導要領では、すべての学年の目標に「社会的事象の見方・考え方を働かせ、学習の問題を追究・解決する活動を通して」という記述があることから、個人の問いを基に、子どもたち同士の話し合い活動を通して多角的に考え、課題の追究や解決に向かうような学びにつながる内容が望ましいかと思えます。この点について、東書 3 年 2 ページでは、社会的な見方・考え方について、キャラクターを用いて「位置や空間」、「時間の経過」、「事象や人々の相互関係」、「比較・分類・統合・関連」の 4 観点に分けて示しているので、学習課題がわかりやすくなっています。日文も 3 年 7 ページにあるように、空間、時間、関係の 3 つの視点に分け、学習に取り組む視点をわかりやすく示しています。

また、3 社とも作業的、体験的な学習を取り扱っており、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されていると思いました。また、ページごとに「学習課題の把握→課題の追究→まとめ→深化とつながり」という 4 段階構造で問いが設定されていて、見通しをもって主体的に問題解決に向けた学習に取り組めるよう工夫されています。

日文の 4 年 70～71 ページですが、このような深め合い活動のページでは、「発表、質問、応答、感想」の流れを示すことで、対話的な学びや多面的な思考・理解につながるよう工夫されていて、論理的な表現力の育成につながるのではないかと思いました。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見ございませんでしょうか

か。よろしいでしょうか。

それでは、審議も整理できましたので、採決に移りたいと思います。

「社会」について、答申や本日の審議の中からまとめさせていただきますと、人権尊重の観点から多様な題材を取り扱っている点、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて学習内容が工夫されている点、SDGsや防災について多く取り扱っている点、対話的な学びや多面的な思考・理解につながるよう工夫されている点、また、本市の児童の状況等も含めて総合的に勘案いたしますと、日本文教出版の「小学社会」が本市の生徒にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【村本教育長職務代理者】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「社会」の教科用図書につきましては、株式会社日本文教出版の「小学社会」を採択することが適当と決しました。

それでは、「地図」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の地図の検討のまとめとしては、地図の見方や活用について児童にわかりやすく示してあること、児童の関心を高める工夫があること、資料が豊富で地図活用が工夫されていること、今日的な課題や防災について豊富に掲載されていること、こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の児童の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領では、小学校社会科において「社会的な見方・考え方」や「問題解決的な学習」を重視した「公民としての資質・能力の基礎」を育成することを目標としています。

【村本教育長職務代理者】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【岩井委員】 地図学習は3年生からが始まります。どちらの教科書も、初めて地図帳に触れる3年生が地図に親しみやすいよう工夫されているとともに、4年間を見通した内容となっています。また他教科や他分野でも活用しやすく作成された地図帳になっていると思います。

東書の7～8ページでは、地図学習の導入として、「地上からの視点、ななめ上からの視点、真上からの視点、実際の地図」と、段階的に視点を変えることで、地図に親しみやすくするための工夫がされています。帝国では、導入として真上からのイラストに加え、実際の写真と地図を並べて示すことで、地図の意義が理解しやすいように工夫されています。さらに、帝国では、3年生から地図学習を始めるための易しい地図などが盛り込まれており、東書よりも総ページ数が多くなっていました。7ページ以降、地図の意義から「地図の約束」、「地図帳の使い方」等、地図活用の基礎となる技能についても詳しく記述

されています。16 ページには、宝さがしのゲーム感覚で地図に親しむコーナーを設けるなど、地図帳を取り扱う導入部分をていねいに扱っていると思いました。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【水野委員】 児童の関心を高める工夫については、両社とも各ページに、問いや作業に取り組みながら地図活用能力を高める課題が設けられています。東書では、「ホップステップ、マップでジャンプ」ということで、全70問の問いがあるということです。また、帝国でも同様に、地図マスターへの道という問いが100問設けられています。両者の違いですが、たとえば、中部地方のページ、帝国の57～61ページ、東書の35～40ページを見比べていただきたいと思います。見ていただけるとわかると思うのですが、それぞれ、中部地方の特色の理解につながる問いや作業が設けられていますが、ちょっと本当に個人的好みと偏見なんです。地図マスターの方がすごくいいなと思っていて、たとえば自動車の組み立て工場などの問いがあり、そういった問いがあると子どもたちがぱっと集中できるかなという風を感じました。社会的な見方とか考え方を育成できると感じました。

それから、一人一台端末ということも、GIGAスクールパソコンがあって、両社とも個別最適な学びにつながる工夫をしています。東書では、デジタルコンテンツの中に都道府県に関するクイズや、地図帳の使い方に関する問題を収載して、児童それぞれの発達段階に応じて学べるようになっていきます。また、縮尺や等高線など、児童が躓きやすい単元で動画教材を用いるなど、学びが進めやすくなっています。帝国は、デジタルコンテンツで47都道府県のデジタル地図が活用でき、各自で調べたいテーマに応じて学べる工夫がされています。先日、高校生の地理の勉強に付き合うことがあったんですけども、本当にiPadで瞬時にデジタルコンテンツに対応させるところがあって、まあこれは小学生ですけどもそういうことってやはりすごく大事ではないかと感じています。また、防災や歴史、世界遺産などについても学びを深めるコンテンツがあって、自学自習で地図を見ながら楽しむことにもとてもよくて、家族旅行やちょっとした旅行などに行った時にも、そういったことを調べることができるかなと思いました。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【藤井委員】 資料の豊富さと地図活用の工夫についてですが、どちらの教科書会社も日本の地方図と都市圏図、世界全図、世界の州ごとの地図、資料図、統計資料、索引と、系統的に配列されておりどの学年の学習内容にも活用しやすいと思いました。

東書では、資料地図が豊富に掲載されています。68ページで日本と世界の主な地形について視覚的に比較したり、81～82ページで日本の伝統文化や世界遺産を地図上に示したりと、空間的な広がり視点から社会事象を捉えられるよう工夫されています。また、77ページでは、6年生の学習内容に関連して、日本の歴史上の主な事象と同時代の世界の様子に関連づけて読み取ることのできる地図が、主な時代ごとに掲載されています。

郷土学習という観点では、帝国は、大阪、奈良、京都などの詳しい地図が掲載されています。51～52 ページに大阪市の中心部の拡大地図があり、八尾市も一部ですが掲載されており、校外学習などの身近な行事等での活用につなげやすいと思います。

それから、帝国は 31～32 ページの見開きで日本の領土とその周りとして詳しく取り上げられていて、高学年での学習でも確認しやすくなっているという風に思いました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他に何かご意見がありましたらお願いします。

【岩井委員】 人権尊重の観点について、どちらの地図帳も学習指導要領にそって配慮されていました。東書の 1～3 ページの「世界みんなにありがとう」では、15 の言語の「ありがとう」とともに、民族衣装を着た子どもたちのイラストも掲載されており、外国の文化に親しみやすい工夫がされています。帝国では、83 ページからの世界各州の地図ページに、「集まれ！世界の子どもたち」や「世界の SDGs」等のコラムを紹介し、世界各国の文化に触れ、国際理解につながる内容になっていると思います。

また、両社とも防災について深く取り扱っています。東書は、97～99 ページで日本の自然災害を地図と関連させて示すとともに、自然災害から身を守る方法について考えられるよう、ハザードマップの見方について扱っています。帝国は、自然災害から身を守る方法について考えたことを表現できるよう、102 ページに防災マップづくりの手順が示されています。

さらに、帝国は、全編にわたって SDGs に関連した資料が豊富に掲載されています。たとえば、90 ページにはパラSPORTS のさかんな国としてドイツが紹介されています。このように、各地域の特徴に合わせた SDGs の紹介が為されており、今日的な課題についても学びが深めやすい内容になっていると思います。125～126 ページには特設ページを設けており、世界各地の課題について社会的な見方・考え方を働かせながら、課題解決に向けて何が私たちにできるかを考えられるよう工夫されています。また、各ページにキャラクターのつぶやきがあり、児童が資料を読み取りながら、主体的に学べるよう工夫されていると思います。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見ございませんか。よろしいでしょうか。

それでは、審議も整理できましたので、採決に移りたいと思います。

「地図」について、答申や本日の審議の中からもまとめさせていただきますと、地図学習を始めるための易しい地図が多く盛り込むなど、児童にわかりやすい工夫がされている点、児童の関心を高められるよう学習内容やデジタルコンテンツが工夫されている点、郷土学習にも活用できる地図や資料が充実している点、SDGs等、今日的な課題について学びが深めやすい内容になっている点、また、本市の児童の状況等も含めて総合的に勘案いたしますと、帝国書院の「小学生の地図帳」が本市の児童にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【村本教育長職務代理者】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「地図」の教科用図書につきましては、株式会社帝国書院の「小学生の地図帳」を採択することが適当と決しました。

それでは、「算数」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会での算数の検討のまとめとしては、基礎的・基本的な知識や技能が身に付くよう工夫がなされていること、児童が興味をもって主体的に学習できる工夫があること、筋道を立てて考えを表現する力につながる学習を豊富に取り扱っていること、こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の児童の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領では「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する」ことをめざしています。

【村本教育長職務代理者】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【水野委員】 各教科書会社において、基礎的・基本的な知識・技能を習得させるための工夫が見られました。

啓林館では、例えば6年生では4ページに「学習の進め方」というページがありますが、これを通して、児童が自分の学習を俯瞰しながら進めることができます。自分自身の学習状況を把握し、学習を進める自己調整学習を進めるということですね。自己調整学習というのですが、そういった工夫が非常に大切だと思いました。また、大日本の6年生6ページに「算数の学び方」というページがあるのですが、考え、学び合い、振り返り、使ってみる、という学習プロセスがわかりやすく示されていると思いました。学校図書の6年2ページの「算数の学び方」は、日常生活の中で算数的な疑問をすくい上げるような工夫があって興味深い内容となっていると思いました。

また、各社とも児童が学習しやすく理解しやすいように、さまざまな部分に配慮や工夫があると感じました。東書においては「今日の深い学び」というコーナーがあって、例えば4年上の64ページにあるんですけども、主体的・対話的で深い学びの視点で内容が構成されているほか、キャラクターの吹き出しが多く、学ぶ際のヒントになるので、算数が苦手な児童にも取り組みやすい工夫されていると感じました。また、教出の巻末には「学びの手引き」というページがあって、図の書き方やコンパスなどの使い方既習事項などを端的にまとめられていて、児童がふり返りやすいように配慮されていると思いました。

啓林館と日文の低学年の教科書では、1ページあたりの文字の情報量を少なくし、図や資料の写真を大きくして、児童が理解しやすいように配慮されていると思いました。ま

た、東書、大日本、啓林館、日文の1年生の教科書は、2冊に分かれており、そのうち初めに使用する教科書が、薄い中綴じの教科書になっていて、紙面がきれいに平らに開くようになっていています。去年、小学校の支援をずっとやらせていただいていたのですが、小学校1年生では、教科書を落とさずに注目させるということが、いかに毎時間毎時間大変かということを感じました。こういうことってすごく大事ですよ。また1年生の初期は、教科書に直接書き込んだり、ブロックやタイルを教科書の上に並べて学習したり、具体物で学習していくということで、そういったことにすごく配慮されていると感じました。

また、児童がつまずきやすい単元として、5年生の「割合」の学習があるのですが、各社見比べてみますと、啓林館と学図は、割合を一つの単元で学習するのではなく、時期を二つに分けて学習していった、スモールステップでいねいに指導できるよう、一つ一つ教室でつまずいた子どもをサポートしながら授業ができるようになっていたかなと思いました。また、啓林館では、6年生でも継続して割合に関する問題を取り上げられております。例えば、6年生の64～67ページ、それから198～201ページを見ていただきたいのですが、この辺りも割合をどのように考えていくかという、つまずきをどのように予防して子どもたちの定着を図るかということがあるかなと思いました。それから、もちろん他の教科もそうなんですけれども、特に算数では、振り返って自分のものにしていくというのがすごく大事で、積み上げがしっかりできていないと本当に中学校で迷子になってしまうとか、わからないところもわからなくなってしまうということになって、これが無力化につながってしまうと考えておりますので、この辺りも各教科書会社さん、工夫の跡があって、本当に感心をいたしました。とりわけ、東書、日文は、単元ごとだけでなく、ポイントとなる課題ごとにふりかえりができるように細かくまとめが示されていました。

それからもう1点あるのですが、学習の定着や習熟という点について、それぞれ一定量の問題が用意されていて、さまざまな難易度の問題が用意されているのでとてもいいなと思いました。発展的な問題の取り扱いがある点、問題の量などについて、とりわけ、日文、大日本、啓林館の教科書は非常に使いやすく充実しているのではないかと感じました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【藤井委員】 各教科書会社とも数学的な見方・考え方を働かせて、思考力・判断力・表現力を育成する、という方針のもとに内容が構成されていると感じました。算数を学ぶ楽しさや良さを実感しながら主体的に学習できるような工夫がそれぞれ施されていると感じました。

全国学力・学習状況調査やすすくウォッチ等においては、日常生活と算数を関連付けた問題が多く出題されています。算数で身に付けた力を生活に役立てたり、算数が社会でどのように活用されているかを知ったりすることにより、算数への興味・関心を高め、主体的な学習につなげることができるのではないかと考えます。

大日本には「おうちで算数」というページが、3年生の86ページにあるのですが、学

習したことを日常生活で活かせるように工夫されています。また、啓林館は日常生活と算数の関わりを実感できるように活用単元を複数設定しています。大阪府教育委員会作成の教科用図書選定資料の算数 27 ページを見ますと、日常生活につながる場面を取りあげている箇所数は大日本と啓林館がとりわけ多く設定されていました。

また、社会の中で算数がどう活用されているかについてのコラムなども各社工夫されており、児童が算数に関心を持つためのきっかけとしてすごくよいと思いました。東書では、大谷翔平選手など世界で活躍する方と算数の関わりについて取りあげた「私と算数」という巻頭コラムを4～6年で掲載しています。また、啓林館では、6年生の巻末、230ページに「未来へのとびら お仕事インタビュー」というページが設けられています。さまざまな仕事の中で使われている算数の考え方について書かれていて、算数がどのように社会で活かされているかが具体的に紹介されているのが良いと思いました。

また、実際に身の回りの物を測ったり、触ったり、具体物を操作したりして体験的に学ぶことも児童の主体的な学びにつながると考えます。各社とも巻末に形の色タイルなど、切り取って学習に使える補助教材が付いていました。特に、啓林館では2年生上に、普通の定規では測りにくいものを図れるべんりなものさしや、3年生上では紙でつくる天秤、5年生では円周測定マシンなど、他にはない特徴的な補助教材がついていました。児童の学習への意欲を高める工夫としてよいと思いました。

また、デジタルコンテンツについては児童の理解を支援したり深めたりするために有効だと考えます。二次元コードの点数やコンテンツ数については、大阪府選定資料の算数の27ページを見ると、東書、大日本、啓林館が特に多く用意されています。作図の仕方等の実写動画やつまずきの多い問題への理解支援コンテンツが工夫されていました。関数や図形等、視覚的にわかりやすい内容については、児童が主体的に学んでいくための興味関心を引き出す手立てとして大変有効だと思います。東書は練習問題に自動正誤判定機能があり、自学自習がしやすくなっていました。タブレット端末の持ち帰りをすることも多い今の状況や学校に行きにくい児童の学びの機会を保障する観点からも非常に有意義だと思います。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【岩井委員】 本市の児童の課題として指摘されている、「筋道を立てて考え表現する力」の育成につながる「対話的な学び」に関する内容については、各社とも数多く用意されていると感じました。

大日本は、思考力の育成をねらいとした「読み取る力をのばそう」というページが各学年に2～4箇所用意されています。例えば、2年生の178ページを見ていただけますか。問題をしっかりと読み取り、「筋道を立てて考え表現する力」を育成しようという意図が感じられます。

また、啓林館の6年生4ページを見ていただけますか。左の部分に「学習の進め方」についての記載があります。啓林館は、すべての主問題に「めあて」と「まとめ」が設定されており、「めあて」につながる児童の問いや気づきを「めばえ」として提示していま

す。各時間の学習過程でポイントとなる「数学的な見方・考え方」にはマーカーが付けてあり、児童が主体的に学ぶ手掛かりとなっています。どのように考えて課題を解決していくかという過程を考えることで、「筋道を立てて考える」ことにつながるのではないかと考えます。また、4年生下の68ページの「見方・考え方を深めよう」や同じく4年生下の54ページの「誰でしょう」といった数量の関係や問題の条件に着目して解決する文章題を扱う等、思考力の育成に重点をおいて作られていると感じました。

さらに、大阪府選定資料の算数の27ページを見ますと、東書を除く各社が全学年で、プログラミングの題材を取り上げています。その中でも大日本は、特に取り扱う題材が多くなっており、プログラミング的思考を学習する機会が多く設けられています。プログラミング的思考は本市の課題でもある「筋道を考えて表現する力」や「論理的に考察する力」の育成につながるものだと考えます。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見ありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、審議も整理できましたので、採決に移りたいと思います。

「算数」について、答申や本日の審議の中からまとめさせていただきますと、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けられるよう、児童にわかりやすい工夫がされている点、児童の興味関心を高め主体的に学習するための工夫が充実し、日常生活とのつながりが意識されている点、筋道を立てて考えを表現する力につながる学習活動が工夫されている点、また本市の児童の状況等も含めて総合的に勘案いたしますと、啓林館の「わくわく 算数」が本市の児童にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【村本教育長職務代理者】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「算数」の教科用図書につきましては、株式会社新興出版社啓林館の「わくわく 算数」を採択することが適当と決しました。

ここで一旦休憩とさせていただきます。再開は11時30分からといたしますので、よろしくお願いいたします。

(暫時休憩)

【村本教育長職務代理者】 それでは、再開いたします。「理科」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井課長】 選定委員会の理科の検討のまとめとしては、児童が理解しやすいよう学習過程や内容が工夫されていること、日常生活や社会と関連付けて考えることができるよう工夫されていること、児童の興味・関心を高める写真や図、資料等が扱われていること、

こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の児童の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領では、自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、自然の事物・事象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成することが目標とされています。

【村本教育長職務代理者】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【藤井委員】 児童が理解しやすいよう学習過程や内容が工夫されていることについてなのですが、啓林館は見方・考え方に関する箇所がマーカーで示されています。また、3年の巻末、182ページにあるのですが、こちらでは見方・考え方についての具体的な説明も掲載されています。どのような視点で観察したり考えたりすればよいか分かりやすく、理科の見方・考え方を身に付けるための工夫としてよいのではないかなと思いました。教出では「見方のカギ」、大日本では、「ココに注目」等のコーナーを設け、見方・考え方について扱っています。東書では、青囲みで示しており、学図ではキャラクターや吹き出しを使うなど、理科の見方・考え方については各社ともわかりやすく示しています。

また、新しい単元に入る際に、既習事項をふり返り、新しい学びにつなげていくために、教出、啓林館、東書は関連するページに「学習のつながり」、「思い出そう」という見出しで、既習学習について記載しています。つながりのある学習をふり返ってから新しい学習に取り組むことで、学習内容について理解しやすくなり、学びが深まると思います。

学習の見通しを持つという点で、6年の水溶液のはたらきの実験のページを比べてみると、東書では154ページ、大日本では104ページ、教出163ページ、啓林館95ページ、学図154ページなのですが、啓林館、大日本は特に、仮説から、計画、考察、振り返りへとつなげる流れが、教科書の左側に見やすく表記されていました。課題の設定や仮説を立てることに重点を置かれており、論理的に考える力の育成につながると考えます。

また、理科においては、実験で薬品や火などを使用する場面がありますので、安全面への配慮が重要です。安全に学習に取り組むために、実験や観察の注意点や実験器具等の正しい取り扱いについての理解を促すための記載にも注目すべきだと考えます。この点について、実験器具を使用する機会が増えてくる4年生のガスコンロの使い方の取り扱いで比較すると、各社とも安全の確保や理科室での活動の配慮事項が示されていて、本文中に、注意マークや危険マークと合わせて注意事項が記されています。その中でも啓林館は6ページで、マークが細分化されていて、やけど、換気、保護眼鏡など、こういった危険があるか、何に気をつければよいか分かるように工夫されています。具体的に示されていてよいと思いました。

より深い学び、自主的、発展的な学びにつながる工夫として、巻末にキーワードから記載ページを探せるさく引が掲載されているのが、教出、学図です。目次から情報にたどり着く以外の検索の仕方に慣れることで、本市の課題のひとつでもある、複数の資料から情報を読み取り、必要な資料を選択していく活動の一助となる工夫がされていると感じました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【岩井委員】 日常生活や社会と関連付けて考えることができるような工夫については、各社ともしっかりと考えられていると思いました。八尾市は地球温暖化を防止する「チャレンジ 80」を掲げ、環境問題に取り組んでいることから、環境保全についての取り扱いについても大切にしたいと考えます。また、防災の面に関しましても、近年、土砂災害や、河川の氾濫等で避難所を開設することも増えている現状があります。学図では、6年生の巻頭で、さまざまな数字から自然環境について考えられるよう、児童の興味関心を高める導入が工夫されていました。教出では、「科学のまど」のコラムにおいて環境問題を取り上げ、関心が持てるように配慮されていました。啓林館6年生の200ページでは、「くらしにリンク」のコラムにおいて環境問題を取り上げ、大阪万博の取組みとリンクした内容を取り扱っていました。八尾市の、大阪万博への参加に向けた意識の高まりも考慮すると、大阪万博の取組みとリンクされた内容は、大切な学びにつながると考えます。

それから、日常生活と結びつける工夫については、各社に見られますが、特に東書の「理科の世界 探検部」や、大日本の「理科のたまてばこ」や「サイエンスワールド」、啓林館の「くらしとリンク」などは、教科書の中で効果的に配置され、理科が苦手な児童も興味をもちやすいよう内容が工夫されて、理科の有用性を実感できるような内容になっていると思いました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【水野委員】 児童の興味・関心を高める工夫ということについて少し意見を述べたいと思います。6年生の人や動物の体の単元については、教出においてていねいに取り扱いしており、42～45ページ、教出の理科の教科書なんですけど、ほぼ実際の大きさのイラストで人体を学ぶという工夫が見られます。それから、啓林館の5年生の94ページには、母体の中の胎児が、実物大で示されています。人の誕生というと、命がどう育まれていくか、一人ひとりの命の大切さに気づくということは、いくら強調しても強調しすぎということはないと思うんですね。とても大事な単元です。実物大のイラストがあることで、子どもたちが自分の体に当てて考えたり、大きさを比べてみたりして、より具体的なイメージを持つことができ、命の尊さを感じるのではないかなと思いました。これらの学習というのは、家庭科の学習とか中学校の理科においても学習する単元であって、教科横断的に学ぶための興味づけ、関連付けに非常に効果的ではないかなと思いました。

文書の記述や分量などは各社、発達段階に応じて、適当な写真や図が効果的に扱われていると思いますが、文字の大きさについてちょっと気になる点があります。東書の6年生の教科書ですが、他社の教科書と比べて全体的に文字がとても大きくなっており、少し見づらいのではないかなと感じました。東書さんの教科書ですね、見てもらったら、文字がちょっと大きいかなというのは思いました。表紙なんかもすごく工夫されていると思

ったんですけれども。

ものづくりという観点では、科学的な思考や問題解決能力を育むことを目的とされており、失敗から学ぶことや諦めずに工夫する力を養うということも大事です。例えば、3年生のおもちゃづくりの単元を比較してみると、大日本3年186ページのおもちゃショーを開こうというところでは、とても活動の流れが分かりやすく、既習内容からものづくりへのつながりが、明確な流れで示されているので、いいかなと思いました。このことは、啓林館の4年生以上でも「ものづくり広場」というのがあります。例えば啓林館の4年生の196ページですね、ものづくりの広場みたいなものが設定されて、これもとてもいいかなという風に思いました。

二次元コードについて、大日本と啓林館については、二次元コードごとに解説が載せてあるので分かりやすく、活用がしやすいかなと思いました。他の3社について、もちろん関連するマークがついているんですけども、ちょっと他のマークの中に埋もれてしまい、せっかくの資料をタイムリーに活用するという点に関しては、さまざまな子どもがいる教室の中で、ちょっと使いづらい面がどうしても否定できないのかなと思いました。

発展的な学習へとつながる工夫として、啓林館では、ワクビットというタブレット端末等雄を使って学習した内容を振り返ることができるデジタルコンテンツがあります。すぐに問題に挑戦できるよう内容になっており、特に便利で活用しやすいですね。なので、教室の中で、例えばこういうコンテンツにとんでもらってそういう展開をしながら、なかなか理解の難しいお子さんのところに行って、フォローするみたいなことができるかなと思いました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見ございませんでしょうか。

それでは審議も整理できましたので、採決に移りたいと思います。「理科」について、答申や本日の審議の中からまとめさせていただきますと、児童が理解しやすいよう学習過程や内容が工夫されており、論理的に考える力の育成にもつながる点、日常生活や社会と関連付けて考えるための工夫が、教科書の中で効果的に配置されている点、児童の興味・関心を高め、命の尊さを感じられるような写真や図、資料等が豊富な点、また、本市の児童の状況等も含めて総合的に勘案いたしますと、啓林館の「わくわく理科」が、本市の児童にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【村本教育長職務代理者】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「理科」の教科用図書につきましては、株式会社新興出版社啓林館の「わくわく理科」を採択することが適当と決しました。

それでは、「生活」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の生活の検討のまとめとしては、主体的・対話的で深い学びが実現するよう、学習過程や内容が工夫されていること、児童の興味・関心を高める写真やイラスト、資料等が扱われていること、スタートカリキュラムや、社会科及び理科との接続について配慮されていること、こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の児童の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領の生活科の目標の改善の項目には、「具体的な活動や体験を通して身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し、生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する」ことが示されています。

【村本教育長職務代理者】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【岩井委員】 学習活動で工夫されていることに関して見比べていきますと、主体的な学びに関しては、教出は、「わくわくスイッチ」というページがあります。上の 55 ページを見ていただきたいのですが、その単元で自分がどのように学ぶかを確認できるようになっていて、児童一人ひとりが課題を意識して主体的に学べるようになっていて印象を受けました。個別最適な学習を意識した作りになっていると感じます。

また、対話的で深い学びの実現に向けて、光村ではどのように伝えるかについて記載されています。たとえば下の方の 92 ページを見ていただけますでしょうか。交流や表現活動の場面では相手意識を持った表現になるよう工夫することや、さらに良いものにするための助言を教科書の登場人物を通じて示唆してくれています。

東書は、下の 14～15 ページを見ていただいたらわかるのですが、対話的な学びの様子がイメージできるように、イラストと吹き出しを使って、児童たちにわかりやすく伝える工夫がされています。子どもたちの気付きを関連付けたり、視点を変えて話し合ったりするなど、対話的な学習活動が展開しやすいよう工夫されていると思いました。

また、東書では、下の 46 ページを見ていただけますでしょうか。そこには、上部に学習活動を明記していて、その下に「びっくりマーク」を示しています。マークによって、「育成をめざす資質・能力」を明示しており、その小単元で「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」のうち、どの力を育成するかがわかるようになっています。指導者にとっても、どのような姿をめざして指導すればよいか明確になり、「指導と評価」の一体化にもつながる工夫だと思います。教出の方でも、例えば上の 30 ページを見ていただけますでしょうか。学習目標をサイコロで見やすく表示して、児童にその学習で身につけさせたい資質・能力が確認しやすくなっています。

学図は振り返り活動が充実するように工夫されていると思いました。たとえば上の 34 ページを見ていただけますでしょうか。見ていただくと、観察のまとめをする際のポイントとして、見る、触る、例える、比べる、予想するという具体的な流れが記載されています。

それから、大日本の下 50 ページでは、SDGs のマークを実際の活動写真とともに紹介して、生活科が今日的な課題とどう関わっているかについて示されています。教出の方

でも、下の 86～87 ページに、「おもちゃをつくってあそぼう」という活動があるのですが、そこには「SDG s の 12」の、作る責任、使う責任のマークが記されています。実際の学習活動と、持続可能な社会を作っていくことがリンクしていて、SDG s について身近に感じられるようになっていきます。以上です。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見がありましたらお願いします。

【水野委員】 児童の興味・関心を高める写真やイラストに関してなんですけれども、東書の上に「花を咲かせよう」という単元があって、28～32 ページ、28～29 を見ていただくと、アサガオとかヒマワリとかマリーゴールドとかホウセンカとかいろいろあって、花が種の状態からどうやって育つのかってということが見比べやすいように教科書のページを工夫されています。ページをめくって確認しながら、成長の流れもこうやってわかるので。よくアサガオなんかを育てることを、小学校で見るんですけど、低学年の子どもにとってはやっぱりいろんなことがわかるかなと、成長の流れがイメージしやすいかなという風に思います。

また、大日本は下の 16 ページにはですね、ビンゴカードを用いて、児童の活動意欲が高まるように工夫されています。大日本図書の同じ下の 42 ページについても、生き物に加え、鼻で匂いとか音にも注目できるように記載があるんですよ。そんなところもあって、五感を使って学習するということが、それからビンゴカードを使って楽しみながら、いろんな自然事象について学びが広がるように配慮されています。

巻末資料について、東書と光村さんは、実物大の植物図鑑というのがあります。東京書籍さんなんですけれども、こんな感じで図鑑があります。実物大の資料で、低学年の児童の学ぶ意欲が高まるかなと思いました。生活科ってわりと校庭に出て、校庭のいろんな植物を見てみようみたいな感じで展開されてることが多いように思うんですけど、そういう意味ではすごく、日常生活とかいろいろ活用できるかなと思います。あと光村さんに関しては、巻末の資料が、教科書から外せるようになっているんですよ。だから本の中に本があって、こう外して、セットして。まあ、いいなと思う反面、紛失しそうでなっていう心配も一方で低学年ではちょっとあるんですけど、非常にこう工夫されていて、これすっぽりと入るということになっています。

それから、光村の下の 50 ページには、健康、安全、道具ということで、児童が気をつけるべき内容について二次元コードで確認して、動作を確認できるようになっているんですね。わたしもちょっと自分の携帯でカメラをかざしていくと、はさみの使い方みたいなのが出てきて。はさみて怪我もあり、使い方を低学年のうちにしっかりマスターしておくことはすごく大事なかなと思いました。映像資料なのですごくイメージしやすい。紙とタブレット端末を活用して授業を進めていけるということで、工夫されていました。

二次元コードの取り扱い数について府の選定資料を見ると、東書が 78 ページで最多となっていますよね。例えば雨などで活動に出られない場合とかですね、地域、まあ八尾市もいろんな校区があるので、なかなか植物や生き物が見つからない、すぐ近くの八尾小学校とか、やっぱり南高安小学校では環境が全然違う。高安小中学校もそうなんですけど。そういう意味では、とても活用しやすいかなと思うので、いろんな地域の子どもも使っていた

けるなと思いました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【藤井委員】 各社とも、入学直後の小学校生活を始めるにあたって、児童の自立を促すような写真やイラストがたくさんあって、入学当初の生活に合わせたスタートカリキュラムのページを設けてありました。「どきどきわくわく1年生」や「楽しいよ1年生」等、各教科の学習や学校での活動をイラストや写真で示しながらていねいに取り扱っているなと思いました。

府の選定資料12～13ページを見ると、東書や教出、啓林館の教科書には幼児期までに育てほしい10の姿、幼稚園教育要領ですが、その記載があると紹介されています。

光村や東書は巻末に理科や社会、総合的な学習へのつながりが掲載されています。大日本の上の7ページや教出の下31ページ、79ページでも、生活科の活動と、理科や社会への学習との関連を意識できるように編成されています。また、啓林館では、上の60ページや下の69ページなどに、体育や国語など、社会や理科以外の教科へのつながりも掲載されていました。

それから、どの教科書も上の最終単元は「もうすぐ2年生」になっており、1年間の成長を感じられるよう配列されています。東書の上では、幼児期の学びを生かした活動や自然に親しむことが中心の学習、下では、まち探検を前期と後期に2回設定し、2回目はより探究的な学びになるよう配列するなどの工夫が見られたと思います。以上です。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見ございませんでしょうか。

それでは審議も整理できましたので、採決に移りたいと思います。「生活科」について、答申や本日の審議の中からまとめさせていただきますと、対話的な学習活動が展開しやすいよう工夫されており、主体的・対話的で深い学びにつながる内容である点、学習意欲の高まりや、児童の理解につながるよう、写真やイラスト、資料等が工夫されている点、スタートカリキュラムや、社会科及び理科とのスムーズな接続に向けて構成が工夫されている点、また、本市の児童の状況等も含めて総合的に勘案いたしますと、東京書籍の「生活」が、本市の児童にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【村本教育長職務代理者】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「生活科」の教科用図書につきましては、東京書籍株式会社の「新編 新しい生活」を採択することが適当と決しました。

それでは、「音楽」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の音楽の検討のまとめとしては、主体的・対話的で深い学びが実現できるように学習活動や資料等が工夫されていること、生活や社会の中の音や音楽について、ていねいに取り扱われていること、児童が知識や技能を着実に習得できるよう工夫されていること、こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の児童の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領では、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することが目標とされています。

【村本教育長職務代理者】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【水野委員】 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫についてなんですが、2つの教科書会社さんともよく考えられているなと思いました。

題材名や学習のめあてについて、教芸の3年生の44ページですね、わかりやすいアイコンの表示とともに、「見つける」や「考える」、「歌う」という言葉と学習目標に合致するような活動目標が設定されていて、学習のめあてや学習の観点について明記されています。これは先生方が指導するときのポイントとして確認できるので、指導と評価の一体化の面でも非常に使いやすいかと思います。

一方で教出では、5年の26ページにですね、「学びナビ」マークがあるんですよ。その学びナビマークのところでは、道筋を示して、話し合い活動を通じて、音楽的な見方を働かせながら表現を深めていけるように工夫されています。これも指導に非常にいいかなと思います。

共通教材、4年生の「もみじ」の学習について見比べてみますと、どちらも歌唱する際の思考、判断の過程が示されています。教出の39ページではですね、歌詞が表す様子や下のパートと上のパートとの関りについて調べてみようとか書かれていて、2つのパートの旋律の関わりについて考える内容になっています。こういう音楽の授業っていうのは、私が受けた音楽の授業とは全然違って、すごいなと感心させられました。教芸46ページの方では、それらに加えて、旋律の特徴とか重なり方の違いが生み出す美しさというのを感じながら、曲の感じに合う歌い方を工夫する等、そういう深い学びが音楽科というのはすごく重要なんだなと思いました。47ページには2番の歌詞を表した写真が掲載されていてですね、歌いながら情景を想像していくということで、たぶん僕も全然情景を感じずに歌っていて、けっこう間違えて歌詞を覚えていることが多いんですよ。音だけで拾うという。だから意味を考えて授業を進めていくとことのはすごくいいなと思いました。

それから、教科等横断的ということと言うと、各教科書会社さんも英語の歌を取り入れているんですよ。教出の72ページに“*It's a small world*”があります。これも有名な歌で、英語の授業とかで使うことがあるのかなと思います。あと教芸の77ページには、“*Head, shoulders, Knees And Toes*”という曲があり、すごい有名ですよ。子どもの頃のいろんな番組でもいつも流れている、“*Head, shoulders, Knees And Toes*”が掲載

されています。リズムに乗って楽しく学習できるので、本当に音と節でやっていくという面ですごくいいなと思いました。教出では70ページに算数と関連付けた九九の歌というものもあります。九九というのは、2年生の最大のハードルだったりするので、そういうのもいいなと思いました。

巻頭のページを見比べてみると、教出では4年生以上で、ピアニストの辻井伸行さんや野村萬斎さんのメッセージが紹介されていて、教芸では3年生以上で音楽家の方のメッセージや音楽の楽しみ方などが写真付きで掲載されていました。ですから、音楽に対する関心を高めて、音楽をただ聞いたり歌ったりするではなくて、そういったイメージとか背景にあるいろんな音楽家の考え方に触れながら深めていくという、すごく工夫されていると思いました。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【藤井委員】 生活や社会の中の音や音楽についてというところなんですが、教芸の1年32ページを見ると、身の回りの音に耳を澄ませ、聞こえてきた音を紹介しようという学習が展開されています。普段の生活の中の音や音楽に関心を持たせるきっかけとなるおもしろい教材だなと思いました。自分が聞こえた音をどのように表現するか、また他の子はどのように表現するのか、友だちの表現との違いや共通点に関心を持ちながら楽しく取り組めるのではないかなと思いました。

それから、社会の中の音楽として、6年生の教科書にはどちらにも世界の音楽の記載があります。教出は38～39ページで8か国を取り上げていて、世界の多様な音楽について紹介しており、良いと思うところやおもしろいと感じるところを話し合う学習活動が設定されています。一方、教芸の方は48～49ページで5か国を紹介しているんですが、国数は少ないのですが、演奏方法などの楽器の特徴とかその国の音楽の情報がより詳細に記載されていて、それぞれの国の雰囲気や大切に受け継がれている様子について考えられるように配慮されているなと思いました。

社会と音楽に関連するコラムとして、教芸では6年生の43ページ、こちらで音楽の持っている力や役割について紹介しています。近年普及したインターネットの画面越しに聞く音楽というのも、人と人とをつなぐ役割があること、それから、阪神淡路大震災や東日本大震災でも、多くの人を音楽の力ではげましたことなどが紹介されています。生活の中にある音楽の良さや力について知ることは、音楽を学ぶ上で大変重要なことだと思いました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【岩井委員】 児童が知識や技能を着実に習得するための工夫に関してですが、教出では、「音楽のもと」として、音楽の構成要素が確認できるよう、教科書の右ページの一番上に掲載されています。また、その巻末に「音楽のもとまとめ」とか、それから早くとかゆっ

くりなどの「音楽を表すいろいろな言葉」や、「音符や休符、記号など」が掲載され、確認できるようになっています。また、教芸では教材の見開きページの右下の端の方に、音楽の構成要素が明記されており、巻末でも「ふりかえりのページ」、それから、「いろいろな音符、休符、記号」を掲載し、1年間の学習を見通したり、随時、関連事項を振り返ったりすることができるよう工夫されていました。

また、教芸はイラストが豊富で、キャラクターの吹き出しが、学習の内容に合わせて児童をナビゲートする役割を果たしています。例えば3年の33ページには、拍子の違いについての理解を助けるような記載があります。低学年はもちろん、音楽に苦手意識のある児童にとっても、学びをサポートすることにつながると思います。

それから次に、楽器演奏の技能の獲得について、1年生での鍵盤ハーモニカの学習について見比べてみたいと思います。1年生の、教芸は35ページ、教出は32ページを開けていただいたらと思います。鍵盤ハーモニカの導入の部分なのですが、教芸は見開き2ページをつかって構え方や持ち方、吹き方などを大きな写真と短い言葉でわかりやすく示しています。また、教芸は、43ページの下の方に鍵盤ハーモニカを使った後の注意についても、記載されていました。

実際に曲を演奏する段階では、教出の34ページと教芸の38ページを見比べてみますと、教出のほうが鍵盤ハーモニカの写真が実物に近い大きさになっています。ですから、教出では、鍵盤のこの写真を使って、どこを押さえるというようなことも練習できると思います。

それから、3年生になったらリコーダーの学習を始めますが、リコーダーの学習でも、3年生の、教出の21ページと教芸の25ページを見比べると、教出のほうが一回り写真が大きくなっています。リコーダー演奏時の息の吹き方や穴の抑え方等については、どちらの教科書も具体的なイメージを持たせるように丁寧に紹介しています。

また、二次元コードについてですが、どちらの教科書会社も二次元コードを活用して、音楽資料や動画で学習の補助ができるように考慮されています。たとえば、教芸1年の11ページでは英語での手遊び歌の動画があって、活動の具体的なイメージを持ちやすくされています。1年生から遊び歌でたのしく英語を学んでいくという動画が入っています。また、教出の方は、1年生の38ページには、鍵盤ハーモニカを吹く際の手の形などを横からと上からの動画で視覚的にわかりやすくされています。二次元コードの取り扱いについては、大阪府の選定資料によりますと、掲載数に差がありまして、教出が103個に対して、教芸は195個となっています。二次元コードの配置についてですが、教芸は教科書の右上に固定されているのに対し、教出は1年の28ページとか30ページのように位置が固定されていません。低学年や視覚情報処理の発達に課題のある児童にとっては、二次元コードの配置が固定されている方が使いやすいのではないかなと感じました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは審議も整理できましたので、採決に移りたいと思います。「音楽」について、答申や本日の審議の中からまとめさせていただきますと、学習のめあてや観点が明示されているなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫がなされている点、生活や社

会の中の音や音楽について、ていねいに取り扱われており、内容が工夫されている点、児童が知識や技能を着実に習得できるよう学習活動や紙面が工夫されている点、また、本市の児童の状況等も含めて総合的に勘案いたしますと、教育芸術社の「音楽」が、本市の児童にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【村本教育長職務代理者】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「音楽」の教科用図書につきましては、「株式会社 教育芸術社」の「小学生の音楽」を採択することが適当と決しました。

それでは、「図画工作」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の図画工作の検討のまとめとしては、児童の興味関心を高める工夫がなされていること、児童にとって学習過程や手順等がわかりやすいよう工夫されていること、他者との対話を通して見方・考え方を広げたりできるよう工夫されていること、日常生活や社会とのつながりについて豊富に取り上げていること、こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の児童の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領では、「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成すること」が目標とされており、

【村本教育長職務代理者】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。はい、岩井委員、お願いいたします。

【岩井委員】 両社とも児童作品や写真を多く掲載しており、児童が興味・関心をもてるように工夫されていると思いました。また、どちらの教科書も、コミュニケーションや言語活動を重視した題材や、共同で行うことを意図した題材が多く設定されており、対話的な学びが実現できるような内容になっています。

日文の教科書では「図工の見方」というページを設けています。例えば1・2年上の30ページをご覧ください。身の回りにある形や色などを取り上げて、似ているものを探したり、どこが似ているかを考えたりする活動ができるようになっています。何の写真かを考えたり、友だちと話したりしながら楽しく学習できる教材になっていると思いました。このように、身の回りにある形や色などを造形的な見方・考え方で捉えるヒントを示すことで、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力が育成されると思います。学習指導要領では、相互鑑賞などを通して自分の見方や感じ方を広げることが求められており、そうした点もしっかりと押さえられていると感じました。

また、開隆堂の方は、図工で育成する3つの力を「くふうさん」、「ひらめきさん」、「こころさん」という3つのキャラクターで表し、学習のめあてをわかりやすく示しています。また、その学習で特に大切なめあては赤字で表記して、下線を引いて目立つように工夫されています。例えば1・2年生上の20ページをご覧ください。20ページでは、こころさんのめあてが赤字になっており、21ページで、こころさんが吹き出しで、「手や指を使って気持ちよさをあじわってね」と言っていて、児童の学びを支援しています。図工で身に付けたい力の観点に沿うめあてを示すことで、学習に取り組む視点がわかりやすくなっていると思います。

また、両社とも、国際理解や伝統文化の理解につながる作品例や写真が多く使われていました。多様な作品に出会うことは、児童の見方や感じ方を広げるために重要だと思います。日文5・6年下の24ページでは、ゴッホやモネの作品が掲載されています。開隆堂の3・4年下22～23ページでは別府竹細工が紹介されています。両社とも、国際理解や郷土理解が深まるよう工夫されています。

また、開隆堂も日文も、デジタルコンテンツが充実していました。たとえば、開隆堂にも日文にも立体作品を360度回転させて見られるコンテンツがあって、児童の立体感覚の育成が期待できると思いました。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【藤井委員】 図工では、作品を作るにあたり、はさみやカッターナイフ、彫刻刀など、使用方法に注意する必要がある道具を使うことがあるので、安全面について十分な配慮が必要となります。教科書については、安全面に配慮して、道具の正しい扱い方について児童にわかりやすく記載されていることも重要だと思います。その点について見てみると、どちらの教科書にも、はさみやカッターナイフなどの使い方や、安全に使うために注意することが書いてあり、デジタルコンテンツを活用すれば実際の使用方法が動画で確認できるなど、児童の安全を考えた内容になっていると思います。特に日文では、1・2年生の上60ページ、こちらでハサミの使い方を見開きで扱っており、「○」と「×」で、正しい使用方法と誤った使用方法をわかりやすく示していると感じました。

それから、選定資料の13ページを見ますと、日文が鑑賞について多く取り扱っています。たとえば、1・2年生の下40～41ページをご覧ください。実際の児童の作品が多く掲載されていて、吹き出しやキャラクターを通して鑑賞のポイントや制作のヒントになるような視点も豊富に示されていると思います。また、1・2年生上の56ページをご覧ください。「友だちの作品を見て話そう」のコーナーでは、友だちの作品を鑑賞する視点や、感じたことの伝え方の例が掲載されていて、感じたことや考えたことを伝えあう活動を促すことで、対話的な学びにつながるよう工夫されていると思います。自分の考えをわかりやすく表現することに課題のある本市の児童にとっても有効な学びが期待できるのではないかと思います。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願い

します。

【水野委員】 日常生活や社会とのつながりについて、よろしいでしょうか。開隆堂は、廃材アーティストということを取り上げて、各学年の冒頭でさまざまな分野の芸術家について紹介しています。社会で活躍している人々やその仕事を多く取り上げることで、キャリア教育にもつながるような工夫がされているなと思いました。日文は、作家の制作活動の様子をインタビューの動画を見ることができて、私も見たのですが、非常によかったです。実社会とのつながりや多様な価値観に触れることができて、思わず見入ってしまいました。5・6年生下の日文の裏表紙を見ていただきたいんですけど、「つながる図工」ということで、インタビューがあり、よかったですと思います。それから、日文は、3・4年生の上 53 ページを見ていただきたいんですけど、復興を願った展示の様子を掲載したりとか、5・6年生上の 37 ページで防災看板のピクトグラムを紹介したりと、防災への意識も深まるように配慮されていると感じました。また、同じページで視覚障害者誘導用ブロックの成り立ちを扱うなど、共生社会と図工をつなげる視点も取り扱っています。

府の選定資料の表現の領域を見ると、開隆堂は工作活動が多くなっていて、3～6年の教科書では「つながる造形」のページを設けて、地域や社会とつながる造形活動を取り上げています。たとえば、開隆堂の5・6年生下の 54～55 ページなんですけど、ここでは、6年間のまとめとして、図工で学んだことを実社会につなげる例が示されており、図工のまとめに適した内容であると思いました。また、学びのつながりという部分では、開隆堂では、1・2年生の上 2 ページで幼稚園の先生が登場して、幼稚園や保育園での活動を思い起こさせる工夫がされています。また、5・6年生下の巻末で、「未来へつながる図画工作」では、中学校とか未来へつながる意識を醸成できるように工夫されています。

日文では、1・2年生の巻頭に「どんなことすきだった？」のページを設けることで、これまでの経験から学習活動が結びつくようにしています。また、5・6年生下の 66 ページでは6年間を振り返りながら、これからについて考えて記入する欄があるんですけども、67 ページでは、中学校の美術の活動が紹介されていて、中学校の美術へのつながりが、小学校6年生からスムーズに、中学校の学習活動へどうやって移行していくかということがイメージを持ちやすいなと思いました。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見ございませんか。

それでは、審議も整理できましたので、採決に移りたいと思います。

「図画工作」について、答申や本日の審議の中からまとめさせていただきますと、児童の興味・関心を高める教材が工夫されている点、安全面への配慮等がわかりやすく示されている点、対話的な学びにつながるように学習が工夫されている点、日常生活や社会とのつながりを意識した内容が工夫されている点、また、本市の児童の状況等も含めて総合的に勘案いたしますと、日本文教出版の「図画工作」が本市の児童にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【村本教育長職務代理者】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「図画工作」の教科用図書につきましては、日本文教出版株式会社の「図画工作」を採択することが適当と決しました。

それでは、「家庭」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の家庭の検討のまとめとしては、食育についての取り扱いが充実していること、児童にわかりやすいよう写真や説明等が工夫されていること、日常生活や社会との関連について丁寧に扱われていること、中学校への接続や教科横断的な学習内容が工夫されていること、こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の児童の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領では、生活の営みに係る見方、考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的、体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し創造する資質、能力を育成することを重視しています。また、「食育の推進」については、本市の重点取り組みとなっております。

【村本教育長職務代理者】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえまして、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【岩井委員】 食育の取り扱いについては、2社ともていねいに取り扱われていました。開隆堂では10ページを開けていただきたいのですが、「クッキング はじめの一步」で、実際の調理の様子について多数の写真を用いてわかりやすく説明されています。また、56ページを見ていただきますと、季節に応じた食材の使い分けで、旬のものを取り入れる工夫について扱われており、実生活に活かしやすい工夫がされていると感じました。また、88ページでは、ひとつの食材を調理法の違いから比較して、調理に役立つよう示されています。

東書の方では、84ページを見ていただけますでしょうか。84ページで、朝食の必要性を通して、献立を作成し、調理するという系統立てた指導ができるようになっていきます。また、116ページでは、献立作成の学習過程の中で、加工食品や価格について比較検討する内容の記載もあって、中学校での学習へのつながりが見通されています。

また、家庭科では日本の伝統的な生活についても取り扱うことになっていきますが、例えば、伝統的な食生活を取り上げる場面で、東書の方は、53ページ、それから149ページで、地域の郷土料理のみの紹介になっていきますが、開隆堂では57ページ、77ページで、世界の料理にまで発展させて紹介していて、125ページでは、行事食の雑煮やお節料理についても広がりを持たせて扱っています。以上です。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見がありましたらお願いします。

【藤井委員】 私の方からは、児童にとってわかりやすい写真や説明という点でよろしい

でしょうか。

家庭科は実習も多くて、安全についての配慮が必要な教科です。例えば、包丁の使い方についての記載を比べてみると、東書では 137～139 ページにおいて材料を切るときの包丁の扱い方を、右利き、左利きの場合に分けて、大きな写真で示しています。開隆堂では 148 ページにおいて、右利き、左利きの注意点が示されています。また、149 ページには食材の切り方が実物大で示されています。児童が、量的感覚をつかみやすい工夫がされていて、安心して作業ができるよう配慮されているなと思いました。

また、児童がつまずきやすい玉結びと玉どめの学習についてですが、東書の方が 30 ページで、開隆堂が 22 ページなのですが、こちらを見比べますと、開隆堂の写真は背景色が落ち着いた色目で、指の動きや糸の状態が見やすくなっています。特に、玉結びの「①糸のはしをつまむ」という工程の記載があることは、児童にとってつまずきやすい玉結びを達成するための一助となる工夫だという風に感じました。

東書では、良い例・悪い例が分かりやすい写真で示されており、児童が自分自身で仕上がりの良し悪しを判定できるように工夫されています。

それから、組織・配列に関して、東書では 12 ページの左端に、学習の進行が 3 ステップで配列されていて、問題解決への見通しが持てるよう工夫されています。開隆堂の 4 ページでは、衣食住を 1 つの領域にまとめていて、学年に関わらず学校毎の学習計画を立てやすい配列になっていると感じました。

また、児童の自学自習に役立つ資料として、開隆堂の 153 ページ、一番背表紙のところにはQRコードの目次が示してあって、児童が繰り返し学習に取り組みやすい工夫が見てとれます。学んだことを生活に活かしていくことができるよう配慮されているかと思いました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見がありましたらお願いします。

【水野委員】 日常生活や社会との関連についてお話をしたいと思います。SDGs の取り扱いということを見ると、東書では、42～43 ページでロゴを掲載していて、17 の目標と実生活を関連づけて、持続可能な社会の構築について、具体的に考えられるように配慮されています。開隆堂では、78～79 ページに SDGs をテーマにしたページを設け、SDGs の視点を根底に据えながら、児童が自立した消費者として取り組めるように具体的に示しています。関連ページの記載もあり、より深い学びへつなげる工夫もされています。132 ページでは、限りある資源について多角的な視点から考えられるようになっています。今とても暑いので、この打ち水の写真はすごく訴求力があると感じます。各教科書会社の環境に配慮した生活という取り扱いを見てみますと、東書ではですね、9.5 ページに対して開隆堂が 16 ページということになっていました。

また、各社とも「話し合おう」「活かす・深めよう」「やってみよう」という実践的な、体験的な活動をとおして言語活動が充実するよう工夫されていますけれども、開隆堂 80～83 ページですね、生活の課題と実践例として、具体的に問題解決があります。家族とクリーン大作戦とか、地域の人と仲良くなろうとか、そういうことが、日常生活でよく見られる事例なので、実践につなげやすいと思います。

防災教育に関する題材の取り扱いとして、東書では、本文以外にも、56 ページにあるように「日々の備えマーク」というのがあって、防災意識の向上につながるよう工夫されています。開隆堂では 144～145 ページに特設ページがあり、どういう風に避難したらいいとか、どんなものを用意したらいいかということが、具体についての記述がたくさんありました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見がありましたらお願いします。

【岩井委員】 教科横断的な学習について、東書では、他の教科や中学校の学習とのつながりのある学習のページにマークを付けて、どの教科のどのような単位と関連があるかを明記しています。例えば 94 ページでは、住まいを扱う単位なのですが、右の端の方に、「理科の 3 年太陽と地面の様子」とか「理科の 4 年金属、水、空気と温度」、それから「体育の 6 年病気の予防」など、これらと関連があるということをしっかりと書いています。開隆堂でも、他教科の学習と関連する内容のページに関連マークを付け、どの教科のどのような単位と関連があるかを明記しています。また、開隆堂の方は 136 ページで、中学校での学びについて分かりやすくまとめてあって、次の段階への学びへ導く工夫が見られます

それから、消費生活を扱った単位についてですけれども、民法改正により、令和 4 年 4 月から、成年年齢が 18 歳に引き下げられたことで、若者が消費者トラブルに巻き込まれることが懸念されています。このことを踏まえたと、小学校においても消費生活についての基礎をしっかりと学ぶことが必要だと考えます。

東書は 38 ページを、開隆堂は 64 ページを開けてください。どちらも消費トラブルについて取り扱っています。東書では、インターネットの買い物や消費者生活センターについて記載しています。開隆堂では、消費者トラブルについて身近な具体例を取り上げて、解決へのヒントを記載しています。また、開隆堂の方は買い物の流れについても、フローチャートを用いてわかりやすく記載されていると思いました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 はい、他にご意見ございませんでしょうか。

それでは審議も整理できましたので、採決に移りたいと思います。「家庭」について、答申や本日の審議の中からまとめさせていただきますと、実生活に活かしやすい工夫など、食育についての取り扱いが充実している点、児童にわかりやすいよう、写真や説明等の構成が工夫されている点、環境への配慮等、日常生活や社会との関連についてていねいに扱われている点、中学校への接続や教科横断的な視点が豊富である点、また、本市の児童の状況等も含めて総合的に勘案いたしますと、開隆堂の「わたしたちの家庭科」が、本市の児童にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【村本教育長職務代理者】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「家庭」の教科用図

書については、「開隆堂出版株式会社」の「わたしたちの家庭科」を採択することが適当と決しました。

これより昼休憩とさせていただきます。午後の再開は13時といたしますので、よろしくお願いいたします。

(暫時休憩)

【村本教育長職務代理者】 13時になりましたので、再開いたします。

それでは、「保健体育」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の保健体育の検討のまとめとして、心の健康に関する取り扱いが充実していること、児童にわかりやすい資料や写真が扱われていること、児童が見通しをもって学習に取り組み、学びを広げたり深めたりできる工夫があること、具体的な体験や対話的な学習によって学びを深められること、こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の児童の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領では、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することをめざすとあります。

【村本教育長職務代理者】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【水野委員】 精神的・身体的な健康をどう維持するかは、本市の児童にとっても大きな課題です。とりわけ、心の悩みについては、文部科学省も「SOSの出し方教育」というものを推進しています。この観点から各教科書を見ていくと、例えば、5・6年生の心の健康に関する単元で、不安や悩みがあるときの対処方法について学習があります。ストレスが大きくかかってきたときにどう対処するかというのは、ストレス理論というのがある、コーピングといいます、すごく大事なところだと思います。本市の大きな課題として、不登校児童数の増加が挙げられます。この単元で学習する心の健康とか、悩みの対処方法ですね、コーピング、不登校の問題とも深くかかわる学習内容だと思います。各社ともこの単元について、例えば対処行動の一つとして、援助要請というんですが、相談するということがあります。相談するのは難しいんですけども、相談できる窓口を知ってるかどうかは、悩みを相談するとき結構大事です。相談窓口を知らないと相談行動に至らないので。東書の5年生6年生新しい保健の18ページをちょっと見ていただいて、資料として不安や悩みがあるときの相談窓口ということで、6か所の相談が載せてあります。それとともに、相談窓口を利用した人の感想が載ってるんですよ。これ実はすごく大事で、相談に行った人のよかったよというアドバイスがあると、実はすごく相談しやすくなるという

ことがあって、すごくいいなと思いました。それから、先日引退発表された国枝慎吾さんの「悩んでいるあなたへ」という、車いすのプロのテニスプレーヤーですけれども、メッセージも記載されていて、国枝さんの中学校の頃の話とかも載っていて悩んでいる人にとってはすごく良い文章になるんじゃないかなと思います。

それからですね、学校でのさまざまな専門家が最近配置されて、そういった一つの活用っていうのは促進されていくべきだと思います。多くの教科書会社が3・4年生の学習で健康を守る活動ということで、例えばスクールカウンセラーさんなどを紹介しています。例えば東書の3・4年生のところの25ページでは、健康を守る活動、学校というところで、保健の先生、養護教諭の先生、保健委員会、栄養教諭の先生、学校医の先生などと並んで、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの記載もあります。小学校には府の事業で、小学校のスクールカウンセラーの配置がかなり行き渡ってきている段階になっていますので、保健の授業でスクールカウンセラーさんがいるよと、連動させることによって、具体的に相談行動につながるんじゃないかなと思いました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 ありがとうございます。他にご意見がありましたらお願いします。

【岩井委員】 資料や写真の取り扱いについてですけれども、5・6年生の学習内容に、「喫煙の害」と「薬物乱用の害」に関する単元があります。今後、成長に伴って行動範囲も人間関係も広がっていく中で、たばこや薬物などの誘惑があることも考えられます。そういったことを踏まえると、非常に大切な単元だと思います。東書、光文、大修館では、たばこを吸う人と吸わない人の肺の比較写真と、覚せい剤や大麻などの写真が掲載されています。喫煙の害や薬物乱用の害についてしっかりと理解し、正しい判断ができるようにするために、このような実物の写真があることは有効だと考えています。例えば、東書でしたら63ページです。喫煙されている方の肺は真っ黒になっています。実物の写真は、児童にとって非常にわかりやすく、印象に残ると思うので、教材としてとてもよいと感じました。

また、大日本、東書、大修館、光文では、3・4年生の体の発育に係る単元で、赤ちゃんのときの実物大の手の写真や手形が掲載されています。例えば、大修館の3・4年生の26ページを見ていただきますと、かわいらしい赤ちゃんの時の写真が載っています。赤ちゃんの手の大きさと今の自分の手の大きさを実際に比べることができて、児童が実感をもって成長を感じられるような工夫がされていると思います。

各社を見比べたときの印象として、学研についてはイラストが多く、写真が少ないと思いました。イラストの良さもありますけれども、内容によっては写真の方がより分かりやすく、インパクトがあると思います。

動画や写真、ウェブサイトへのリンクなど、他の特色に注目すると、東書では、「コンピュータを学びに生かそう」というコンテンツがあって、タブレット等の使い方や注意点、情報の探し方などについて確認することができるようになっていました。また、大修館では、保健クイズというのがあって、単元の内容をクイズ形式で楽しみながら確認できるようになっていて、よいと思いました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見がありましたらお願いします。

【藤井委員】 児童が見通しをもって学習に取り組み、学びを広げるという点について、教科横断的な視点でみると、他教科や他学年とのつながりについては、どの教科書にも示されていました。東書と学研について、特によいと思った点があります。東書の5・6年生の4ページと、学研の5・6年生の7ページを見ていただけますでしょうか。東書と学研の2社については、各単元の最初のページに単元の目標と、スタートからの過程がわかりやすく示されていて、児童が学習の見通しを立てやすいように紙面が工夫されていると思いました。それから、他学年や他教科とのつながりについても明記されていて、学びを結び付けやすいと思いました。学研については、その単元の内容に関連する職業も紹介されていて、キャリア教育の視点にも配慮されていると感じました。また、東書の5・6年生の14ページを見ていただけますでしょうか。こちらはページの始めに大きなクエスチョンマークがあって、黄色い背景に大きな字で学習課題が示されています。他の教科書と比べてとても見やすく、しっかりと意識をしながら学習を進められるのではないかと思います。

それから光文では、各章の最初のページで4コマ漫画を使って学習内容に関わる課題提起をしています。漫画になっているので、児童にとって読みやすく、教師にとっては授業の導入としても活用できると思います。

大日本、大修館、文教社、光文、学研では、教材のページの下の部分に、学習内容に関わる補足情報が、豆知識、ミニ知識などとして掲載されていました。マークをつけ、あえて本文とは異なる小さな字でページの下部に簡潔に記載することで、児童が興味を持ちやすくなるのではないかなと思いました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見がありましたらお願いします。

【水野委員】 具体的な体験や対話的な学習によって学びを深められるという点においては、話し合い活動を行う場面が設定されていることが大切ではないかと思います。各社とも、自分の考えを書いたり、それを基に話し合ったりするページが設けられていました。大阪府教育委員会教科用図書選定資料の保健体育21ページの「各内容を取り上げている箇所の数」を見ますと、話し合い活動を設けている箇所について学研が19と一番多くなっています。文教社は0となっています。対話的な学習が推進されている中で、話し合いの場面設定がないというのは気になります。

また、ほとんどの教科書で、授業で話し合ったことや考えたこと、振り返りなどを書き込むことのできる欄が設けられていましたので、振り返り等の記入欄を比べると、東書では、まず「深める・伝える」で学習したことをもとに児童が考えたことを書いて、さらに「まとめる・活かす」でこの学習したことをどうやって今後どう活かすかという記入欄が用意されていますので、学んだことをしっかり深めて生活に活かすことができるという工夫がされているので大変よいと感じました。

具体的な体験を伴う活動というものについては、各社とも5・6年の教科書で、リラ

ックスするための体ほぐしの運動や呼吸法などについての記載があります。例えば東書 16 ページ、光文 16 ページ、大修館 16～17 ページですが、東書 16 ページを見ていただくと、呼吸法と軽い運動ということで、友達と一緒にできる運動が紹介されていました。それから大日本では、5・6年生の8～9ページで、体のさまざまな部分のストレッチが紹介されていて、体と心をほぐそうということで、腕のストレッチや背中ストレッチが紹介されています。これもいいなと思いました。

また、5・6年生の教科書では、各社とも資料やコラムの中で、喫煙や飲酒をすすめられた際の対処について考えさせる内容があります。これも、実際に中学校の研究授業で見たことがあります。誘われたときにどうやって断るかということは大事で、中学校になると問題行動、みんなでお酒を飲むみたいな、あつてはならないことですが、そういう場合にしっかりと断ることができる。学研では、断り方の例が特にたくさん出ていました。また、学研と東書では、喫煙や飲酒を断る場面をロールプレイが、デジタルコンテンツで入っていて見たんですけど、とてもいいなと思いました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、審議も整理できましたので、採決に移りたいと思います。

「保健体育」について、答申や本日の審議の中からもまとめさせていただきますと、相談窓口や専門家の紹介など、心の健康に関する取り扱いが充実している点、児童にわかりやすい資料や写真が工夫されている点、児童が見通しをもって学習に取り組み、学びを広げたり深めたりできるよう、教科横断的な視点も含め工夫されている点、具体的な体験や対話的な学習ができるよう工夫されている点、また、本市の児童の状況等も含めて総合的に勘案いたしますと、東京書籍の「新編 新しい保健」が本市の児童にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【村本教育長職務代理者】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「保健体育」の教科用図書につきましては、東京書籍株式会社の「新編 新しい保健」を採択することが適当と決しました。

それでは、「外国語」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の外国語の検討のまとめとして、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動の工夫がされていること、児童にとってわかりやすく、興味・関心を高める題材が取り上げられていること、中学校の学習へとつながる工夫がされていること、こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の児童の実態に適している教科書として各発行社の特色をまとめ、答申にあげられております。

学習指導要領の目標については、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指す」と

されています。

また、本市においては、小中連携を通して、英語でやりとりする力をつけさせることに重点を置いております。

【村本教育長職務代理者】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【藤井委員】 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、どの教科書でも、知識を活用してやり取りを行う場面が多く設定されていました。また、主体的な学びのために、自己の活動や学習内容を振り返るページも、すべての教科書会社で設定されていました。

府の選定資料英語の 22 ページをご覧ください。小学校 6 年生での話すことやりとりのページ数を見ると、開隆堂は 54 ページ、東書は 48 ページと、他の教科書に比べて多くの設定がされており、本市の実態やめざす方向性とも合っていると思われました。ページ数では開隆堂が多くなっていますが、開隆堂 6 年生の 20～21 ページと、東書の 10～11 ページを見比べてみると、発表やそれまでの授業の流れについては、東書の方が分かりやすいなと思われました。

表現する活動という点では、各社ともペアワークやグループワークが設定されていて、英語で話したり聞いたりする機会も十分に確保されていると思えます。三省堂では、習ったことを活用して表現する学習活動のページが複数設けられています。6 年生の 34～35 ページを見てください。このページは、10～33 ページの複数のレッスンで習ったことを使って表現する内容となっています。学んだことをふり返ることで知識の定着につながり、学んだことをどう活用するかを考えるということで、思考力が育まれます。自然な流れで学びを活かす配列になっていて、非常に学習しやすく効果的だと思います。

学んだ英語を活用するページや、単元の最後で学習を振り返るページについて、選定資料の英語の 22 ページをもう一度ご覧いただくと、東書は、毎時間の振り返りができる構成になっていて、他社と比べてふりかえりの数が多くなっています。学習の振り返りをするとは、自ら課題を見つけて、主体的に学んでいくことにつながりますので、しっかりと振り返りができるのはよいと思えます。

啓林館では Tips、5 年生の 63 ページに載っています、それから三省堂では Plus、6 年生の 75 ページにあります。学習したことを使った言語活動を促す内容になっていて、発展的な活動につなげるよう工夫されています。また、東書の 6 年生の 29 ページでは、教材ページの下の部分に、その単元で習った単語の紹介と併せて、関連する単語を別冊の単語帳から見つけられるよう導く Plus というコーナーがあって、学んだ内容をさらに深めていくことにつながると思いました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見がありましたらお願いします。

【岩井委員】 取り上げられている題材の視点から各社を見比べてみたいと思います。三省堂 6 年の 11 ページをご覧ください。ここでは、「My Goal」として自分の地域を英語で紹介する活動が取り扱われています。身近なものを英語で表現することで、児童の興味・

関心が高まる題材だと思います。

それから開隆堂の5年の58ページや、東書の5年の86ページ、啓林館の6年生の60ページでは、あこがれの人物やヒーローの例として、障がい者スポーツや障がいのある音楽家などが取り上げられており、人権にも配慮されていると思いました。

さらに各国の文化等の取り扱いについて、啓林館は扱っている国の数が一番多く、食事や文化についても写真付きで紹介されているので、国際理解の深まりにつながると思いました。東書は5年の34ページを見ていただけますでしょうか。Unit3の各国のジェスチャーが出ています。それから68ページのUnit6世界の料理といった、身近な題材を多く取り上げるなど、全体を通して国際理解教育への配慮が見られました。

文章の題材について、開隆堂には一番多くの物語が掲載されています。例えば6年59ページをご覧ください。このようにまとまった文章は、小学校の教科書ではあまり取り扱いがありませんが、興味を引く内容であり、これまでの学習の復習や、内容についての質問を通して発展的学習にもつながることから、こういったまとまりのある文章が教材として取り上げられているのはよいなと思いました。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見がありましたらお願いします。

【水野委員】 小学校の外国語科で学んだことを中学校の英語学習につなげていくという視点は、とても大事だと思います。各中学校区で作成している「CAN-DOリスト」にのっとって、小中が連携することがますます重要になってきており、今後も小中のつながりを意識した外国語教育を推進していく必要があると考えております。

書くことに関しては、小学校においては、なぞり書きとか写し書きに親しむことが重要です。6年生を中心に、児童が教科書に直接書き込む活動が多いと思いますので、ノートは基本的には外国語の場合には使わないんじゃないかなと思います。そう考えますと外国語については、教科書が大きいほうが活用しやすいと思います。また、中学校との接続を円滑に進めるためにも、よく見て正しく書くことに慣れておく必要があります。各社とも英語を書くための4線が載っているんですが、4つの線なんですけれども、東書と他社の4線を比べると、東書の4線は幅が広くて、書きやすくなっているのではないかと考えます。また、東書と開隆堂はアルファベットの大きい文字と小さい文字を書き込んで復習できるようなページも設けており、中学校に向けた基礎の定着が期待できると思います。東書は、レッスンごとに書くスペースが設けられ、書く活動を多く取り入れられるよう配慮されています。小学校の時から、英語を書くことに親しみをもって取り組むことで、スムーズに中学校の活動に入っていけるとと思います。例えば、東京書籍49ページ、6年生を見てみると、Let's Read and Write と書いてあって、This is my sweater. と書かなきゃいけないんですけど、このことをここに書くということですよ。

それから書くことだけでなく、中学校に向けた基礎という点では、たくさんの単語に慣れ親しむことが大切だと思います。東書や三省堂は、別冊として5・6年生が通年で使用する単語帳がついています。繰り返し活用して単語に親しむことができ、中学校での学習にもつながっていくと思います。開隆堂も、学年ごとに別冊のWord Bookがついておりますし、光村も巻末の単語帳の取り外しができるようになっています。啓林館は、

巻末に単語帳が付いていますが、別冊の方が書き写しをするには使いやすい、ページを前後してしまいますので、と思います。

光村以外の教科書では6年の最後のレッスンに、中学校生活をテーマとして扱った学習があります。中学校への接続を考慮するというのであれば、文法事項も中学校の授業の導入で使えるようなことになっており、スムーズな接続につながるのではないかと考えます。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見いかがでしょうか。

ないようですので、それでは、審議も整理できましたので、採決に移りたいと思います。

「外国語」について、答申や本日の審議の中からまとめさせていただきますと、本市の課題である、「やりとりを中心にした授業づくり」について多く取り上げられている点、主体的で対話的な学びの実現に向けた工夫がされている点、書く活動が充実しており、中学校の学習へとつながるよう工夫されている点、また、本市の児童の状況等も含めて総合的に勘案いたしますと、東京書籍の「NEW HORIZON Elementary (ニューホライズン エレメンタリー)」が本市の児童にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【村本教育長職務代理者】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「外国語」の教科用図書につきましては、東京書籍株式会社の「NEW HORIZON Elementary」を採択することが適当と決しました。

それでは、「道徳」について審議をいたします。選定委員会ではどのような観点でまとめられていましたか。事務局より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 選定委員会の道徳の検討のまとめとしては、主体的・対話的で深い学びの実現にむけて学び方が工夫されていること、児童の興味・関心を高められるような教材や資料が工夫されていること、「いじめ」「生命尊重」「自己肯定感」など人権について丁寧に扱われていること、情報モラルについて丁寧に取り扱いされていること、こういった点での議論をもとに、選定委員会として本市の児童の実態に適している教科書として各発行者の特色をまとめ、答申に挙げられております。

学習指導要領においては、「自己を見つめ、多面的・多角的に考えること」「自己の生き方についての考えを深めること」が記載されております。また、内容に関しては「情報モラルに関する指導を充実すること」や「現代的な課題の取り扱いにも留意する」ことなどが記載されております。

また、八尾市教育振興基本計画においては、豊かな心の育成のための施策の方向性として、特別の教科 道徳を要として心の教育の充実を図り、子どもたちの自己肯定感・自己有用感を高める教育を推進すること、命を育む教育を推進することなどが挙げられております。

【村本教育長職務代理者】 ただいま事務局から説明がありましたが、そのことも踏まえて、委員のみなさま方、何かご意見はございませんでしょうか。

【岩井委員】 主体的・対話的で深い学びの実現に関わって、道徳では「考え、議論する道徳」という言葉が使われることが多いように思います。どの教科書も、児童が深く考えたり、友だちと積極的に意見を交わしたりできるよう、考える方法や上手に話し合うための方法などについての記載がありました。また、現在、各校ではさまざまな教科において考える方法を身に付ける手立ての一つとして思考ツールの活用が進んでいると聞いております。道徳科においても考えを深めるための方法として思考ツールの活用が考えられますが、光村、光文では思考ツールを活用した考え方や話し合いの仕方、まとめ方などがていねいに示されていました。東書には、巻末に「考えるためのツール」として、切り取って使うことのできる心のメーターと、心情スケール、心の地図の紹介がありました。東書の、どの学年でも結構ですけれども、巻末をみていただきますと、心のメーターや心情スケールなどがついていると思います。心のメーターや心情スケールは、言葉での表現が苦手な児童の支援にもなりますし、児童が考えを話すきっかけとしても活用できます。さまざまな教材で繰り返し活用できるのでよいと思いました。日文については、デジタルコンテンツの中に心情メーターや思考ツールが用意されていました。また、東書5年生 48 ページでは、「つながるひろがる」のページなのですが、学習したことに関連して、グループの友だちと一緒に考えたり、ワークシートに書き込んだり、互いに伝え合ったりするような活動が提案されていてよいと思いました。

それから先ほど事務局の説明にありました「問題解決的な学習」や「体験的な学習」などについては、各社とも意識した内容になっていると感じました。特に、日文の5年生の86ページを見ていただけますでしょうか。日文には、各学年に5、6個「ぐっと深める」というページがありまして、話し合いを深めたり、演じて考えたりする活動例が示されているのですが、実際に演じてみたり、それからグループで話し合ったりする様子の写真等が掲載されていて、児童や指導する教員にとってわかりやすい工夫がされていると感じました。この87ページの写真にも話し合い、演じている写真が出ていますが、これを見ると、すぐにぱっと、教員にも子どもたちにもイメージできるんじゃないかなと思いました。

それから、学びを深めたり広げたりするという点では、学んだことを他教科や日常生活と関連付けることも大切だと思いますが、東書では「つながるひろがる」。例えば3年の24ページに出ています。光村では「つなげよう」が3年生の69ページにあります。日文では「心のベンチ」3年生の35ページや「見つけた！ここにも道徳」として、他教科との関連や普段の生活との関連が明記されています。道徳教育は学校教育の教育活動全体で取り組むものであり、当然他教科との関わりについて教師も子どもも意識しておくことが必要ですので、こういった記載があることは大変重要であると考えております。以上です。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見がありましたらお願いいたします。

【水野委員】 児童が主体的に学習に取り組むためには、教材自体に児童を引きつける力があるかということが重要です。特に道徳の場合には教材自体が非常に内面、心情に訴えることがありますから、こういった工夫というのは非常に大事じゃないかと思います。

各社の教材を見ますと、どの教科書もそれぞれに実在の著名人の生き方を取り上げた教材が多数掲載されております。東書と教出と光文では、水泳の池江璃花子選手のエピソードが教材として掲載されておりました。前回採択の教科書にも世界を舞台に活躍する池江選手の努力をテーマにした教材があったと記憶していますが、今回の教科書では、皆さんも印象深いと思います。その後白血病になられて、彼女が病気と向き合いながら、再び水泳に挑戦する姿を教材に採用されておりました。子どもたちのよく知る著名人の実話というのは、子どもたちにとって興味深いものでありますから、また同時に、非常に説得力、訴求力があるというかですね、訴えかける力がある教材であると考えます。

また、各社とも、児童の心に響くような写真とか挿絵が掲載されていると思いました。学研の1年生の36～37ページを見ていただきたいと思います。実物大の赤ちゃんの写真が掲載されています。さまざまな家庭環境の多様化によって、赤ちゃんを見る機会というのは、子どもさんでもなかなか多くはないということで、まずはそういうことを見るということと、自分もこんなに小さかったのかということ、おうちの人で育ててくれたということも実感できるので、良い教材だと思いました。それから、光村の、今度は写真じゃないんですけども、3年生の38～39ページ、こんな挿絵がボンと入ってですね、3年生の発達段階ということを考えても、すごく感情が伝わってくる絵を使っているということだと思います。各社とも低学年を中心に大きな写真や挿絵を掲載したページがありますが、とりわけ東書は全学年を通じてインパクトのある写真が多いと感じました。例えば、1年生の130ページ、4年生の151ページ、6年生の132ページとか、とても鮮やかで印象的な紙面になって、写真や挿絵から何かを感じたり、話し合ったりすることによってですね、授業が非常に展開しやすくなるんじゃないかと思いました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見がありましたらお願いします。

【藤井委員】 選定委員会での議論の観点として、いじめ問題の取り扱いがあったかと思いますが、道徳科においていじめ問題についてじっくり考えることは未然防止の観点からも大変重要だと考えています。

いじめ問題の取り扱いに注目して見てみますと、東書、教出、光村、日文、光文では、すべての学年でいじめ問題を、複数の教材やコラムなどを連続で取り扱ったユニット形式で設定しており、いじめについて重点的に考えられるように工夫されていると感じました。中でも、東書ですね、例えば東書の4年生の37ページをご覧ください。こちら全学年共通であるんですけども、それと光文の、こちらの方は4年生の41ページ、いじめ教材のはじめに扉ページを設けていて、特に重要な学習であることを感じさせる工夫があると思いました。東書では、こんな感じで扉がついている会社が東書とか。光村に扉ページはないんですけども、ユニットの始めのページに「いじめを許さない心」と明記していま

す。こういうのは非常にわかりやすいなと思いました。右上ですね、「いじめを許さない心」と書いてますね。学研は、いじめに関する教材が1年間の中にばらばらに配置されているので、目次で確認ができるようにはなっているんですが、いじめに関連する教材についてはマークで示されています。目次や教材ページの中で「いじめ」という言葉が明記されている箇所が少ないのが気になりました。また、いじめ問題を扱った教材の学習時期についてですが、東書では1年生以外の学年で、1学期の半ば頃に学習できるように時期をそろえて教材が配置されていました。いじめの未然防止の観点からも、1年間の早い時期にいじめについてクラスでしっかりと考える時間をもつということは大切なことだと思います。また、全校で時期をそろえて学習することで、道徳の授業に合わせた学校全体のいじめ防止の取り組み等にもつなげやすいのではないかなと思いました。

それからもう1点なんですが、いじめ問題とも関連します。生命尊重についても重視したいところなんですが、大阪府教育委員会作成の教科用図書選定資料、道徳の16～18ページ「内容項目別教材数及びページ数」というので見比べますと、ほとんどの会社が各学年年間3教材ずつ、6年間で18教材取り扱っているのに対し、日文は16教材、教出は、12教材と、「生命の尊さ」に関する取り扱いが少なくなっていました。教材の内容については、各社とも命についてさまざまな角度から考えられるよう教材が工夫されていると感じました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 他にご意見がありましたらお願いします。

【水野委員】 情報モラルの取り扱いという点でよろしいでしょうか。一人一台端末が導入されて、各校では端末を活用した学習が進んでおります。児童に携帯電話を持たせる家庭も増えていて、割と多くの家庭にWi-fiが導入されているということもあってですね、スマホやタブレットでオンラインゲームをする子どもも多いと思います。また、この夏のように非常に暑いと、例えば今13時台ですけど、こんな時間帯に遊ぶときは、外で遊んでらっしゃいというよりも、おうちでクーラーの効いているところで過ごさないと、どうしてもゲームをやるということになってしまいます。先日NHK教育テレビの「いじめノックアウト」というテレビ、5分くらいのシリーズもののテレビの中で、オンラインゲームのいじめということがちょっと特集されていました。自分のアバターがいじめられるということなんですけれど、そういうことも含めて、ネット環境、インターネットでさまざまなトラブルに巻き込まれる危険性が格段に高まっていると思います。それからSNSに対する情報モラルはさまざま課題となっておりますので、道徳の教材として情報モラルを取り扱うことは、子どもにとっては非常に有益だと考えます。

この観点で見えますと、どの教科書も、情報モラルについての新しい教材が多数取り扱われて、もくじでは該当する教材にマークをつけたり見出しをつけたりして、すぐにわかるように工夫されています。東書、教出、光村、日文、学研は教材とコラムなどを連続して配置したユニット形式になっています。日文の3年44ページの「きまりをまもる」というのがあります。タブレットでゲームをしてしまう話なんですけれども、ゲームについて取り扱っています。こういった教材が各教科書に載っています、東書の3年生の62ページに、僕ちょっと感心したんですけど、著作権クイズというのがあって、

3年生で、場面1で上手な絵をお手本にして絵を描く練習をした、これが著作権的にどうなのかと。これは丸なんですけど、場面2で、上手に描けていた友達の絵を勝手にSNSに投稿したというのがあるんですよ。これは著作権的にだめなわけじゃないですか。だけど小学校3年生でスマホを持ったりタブレットを持ったりする生活をしていると、友達がいい絵を描いていたらそういうことを投稿することがあるんだなと思って。4年生ぐらいから、私の知識が正しければ、スマホなどの所持率がすごく上がるので、その前の3年生にこうしたことをしっかり入れておくというのは、教材としてとてもいいのではないかと思います。それから東京書籍の6年生の60ページにさまざまな角度から情報を確認しようという話があるんですよ。情報社会で差別が起きやすい理由を見つけてみようというものがあるんですが、「ケチャップ」という非常にニュートラルな単語を例にして、目玉焼きにはケチャップをかけるか、醤油をかけるか、塩をかけるか、ソースをかけるか。ケチャップをかける派の人がケチャップで検索すると、ケチャップをかける派の人の話がどんどん検索されていく。インターネットってそうですよね。ですから、そうやって、「あ、みんなそう思ってるんだ。」と思って、例えば「いいね」をしたりリツイートしたりすることによって、いろんなことが起こるじゃないですか。そういうことが、こういう形で掲載されていて。あと、フェイクニュースについての動画もあったりして、非常にいじめ防止にも役立つんじゃないかと思いました。日文さんにも、3年生の48ページにチェックリストがあたりるので、そういった意味で自分のことを振り返るチェックリストということで、道徳がインターネット社会におけるSNSのいじめとか、意図せず何かトラブルに巻き込まれるということも教材をしっかりと扱っているということで、非常に感心しました。以上です。

【村本教育長職務代理者】 他に何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、審議も整理できましたので、採決に移りたいと思います。

「道徳」について、答申や本日の審議の中からまとめさせていただきますと、主体的・対話的で深い学びの実現にむけて、学び方について工夫されている点、児童の興味・関心を高める教材や写真等の資料が工夫されている点、「いじめ」の取り扱いについて丁寧に扱われている点、情報モラルについていねいに取り扱われ、教材が工夫されている点、また、本市の児童の状況等も含めて総合的に勘案いたしますと、東京書籍の「新訂 新しい道徳」が本市の児童にとって最も適した教科書であると思いますが、この教科書を採択することにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【村本教育長職務代理者】 全委員ご異議なしと認めます。よって、「道徳」の教科用図書につきましては、東京書籍株式会社の「新訂 新しい道徳」を採択することが適当と決しました。

【村本教育長職務代理者】 よって、議案第22号「令和6年度使用 八尾市立小学校教科用図書の採択に関する件」については、以上のおりと決しました。

それではここで、10分間を休憩といたしまして、14時5分から再開させていただきたいと思っております。では、暫時休憩ということでよろしくお願いいたします。

(暫時休憩)

【村本教育長職務代理者】 それでは、14時5分となりましたので、再開させていただきます。議案第23号「令和6年度使用 八尾市立中学校教科用図書の採択に関する件」について審議いたします。提案理由を黒井学校教育推進課長より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 議案第23号「令和6年度使用八尾市立中学校教科用図書の採択に関する件」についてご説明いたします。

本件については、教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第9号の規定により、次のとおり委員会の議決を求めるものです。

提案の理由といたしましては、令和6年度使用八尾市立中学校教科用図書を採択するにつき、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条に基づき、本案を提出する次第です。

以上、甚だ簡単な説明ではございますが、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

【村本教育長職務代理者】 ただいま、提案理由の説明がございましたが、中学校用教科書の採択について令和6年度においては、無償措置法第14条の規定に基づき、昨年度と同一の教科書を採択しなければならないということによろしいですね。

【黒井学校教育推進課長】 はい。その通りでございます。

【村本教育長職務代理者】 現在使用されている教科書について、現場の先生方から何か不備な点など、聞いていることはありませんか。

【黒井学校教育推進課長】 使用に際しての不備な点はなく、教員の研究、また授業の学びも進められているという報告を受けております。

【村本教育長職務代理者】 分かりました。ただいま説明がありましたように、現在使用されている教科書について、不備な点もないようでございます。

委員のみなさま方、何かご質疑ございませんでしょうか。

ないようですので採決に移らせていただきます。議案第23号について原案を適当と認めることにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【村本教育長職務代理者】 全委員異議なしと認めます。よって、議案第23号「令和6

年度使用「八尾市立中学校教科用図書の採択に関する件」について原案を適当と認めることに決しました。

ここで、議案第 24 号の資料準備のため、暫時休憩をさせていただきます。
再開は 5 分後とさせていただきます。14 時 15 分再開ということでお願いいたします。

(暫時休憩)

【村本教育長職務代理者】 では、再開いたします。次に、議案第 24 号「視覚に障がいのある児童・生徒に対する「拡大教科書」の採択に関する件」について審議いたします。提案理由を黒井学校教育推進課長より説明願います。

【黒井学校教育推進課長】 それでは、議案第 24 号「視覚に障がいのある児童・生徒に対する「拡大教科書」の採択に関する件」について、ご説明いたします。

本件については、教育長に対する事務委任等に関する規則第 2 条第 9 号の規定により、次のとおり委員会の議決を求めるものです。

提案の理由といたしましては、市内小中学校に在籍する児童・生徒が拡大教科書を必要とすることから、学校教育法附則第 9 条に規定する教科用図書として承認いただきたく、本案を提出する次第です。

以上、甚だ簡単な説明ではありますが、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

【村本教育長職務代理者】 ただいま提案理由の説明がございましたが、委員のみなさま方、何かご質疑ございませんでしょうか。

【岩井委員】 来年度、拡大教科書を使用する予定の児童・生徒はいますか。

【黒井学校教育推進課長】 現時点においてということではございますが、小学校で 1 名、中学校で 1 名の使用を予定しております。

【村本教育長職務代理者】 他にご質疑ございませんか。ないようですので採決に移らせていただきます。議案第 24 号につき原案を適当と認めることにご異議ございませんか。

【全委員】 異議なし

【村本教育長職務代理者】 全委員異議なしと認めます。よって、議案第 24 号「視覚に障がいのある児童・生徒に対する「拡大教科書」の採択に関する件」について原案を適当と認めることに決しました。

さて、本日は、小学校、中学校、拡大教科書の採択を行いました。それぞれの教科書が、児童・生徒の学習に効果的に使用されますようお願いしておきます。

以上で、本日の予定案件については終わりますが、この際、委員のみなさま方から何かご発言はございませんでしょうか。

よろしいですか。長時間にわたり、本当にありがとうございました。

それでは、以上をもちまして本日の臨時教育委員会を終了いたします。